

# 2018 オーストラリア海外研修

## 報告集



兵庫県立三田祥雲館高等学校国際交流協会

*Hyogo Prefectural Sanda Shounkan Senior High School Cross Cultural Association*

# 《 目 次 》

1	はじめに .....	p. 1
	(校長 高橋 敬介)	
2	平成30年度 オーストラリア海外研修引率を終えて .....	p. 2
	(国際交流委員 中村 宗治)	
3	研修風景写真(その1) .....	p. 3
4	2018 オーストラリア海外文化・語学研修(概要) .....	p. 7
5	2018 SSH オーストラリア海外科学研修(概要) .....	p. 9
6	海外研修を終えて(参加生徒46名による報告) .....	p. 11
7	研修風景写真(その2) .....	p. 58

# はじめに

校長 高橋 敬介

私が教頭として三田祥雲館高等学校に着任したのは、西オーストラリア州（パース市）への海外研修が初めて実施された平成 20 年度でした。前年度に育友会、同窓会、学校という 3 つの組織の協力により本校の国際交流協会が発足し、年度当初より夏に向けた実施計画が着々と進んでいるところでした。海外研修の実施は、生徒や保護者の皆さんの念願であったと聞きました。

第 1 回目の海外研修には本校から 19 名が参加し、この取組の先進校であった県立高砂南高等学校との合同チームで 10 日間の研修を行っています。現地に到着した初日の宿泊はホテルではなく、倉庫のような場所で最悪のスタートだったそうですが、その後は西オーストラリア州立大学での語学研修とホームステイ、地元高校との交流、パース市長との面会等を順調にこなし、無事帰国しました。夏休み明けの全校集会で晴れ晴れと報告する生徒達の姿をよく覚えています。

平成 21 年度の第 2 回目は新型インフルエンザの流行と重なり、最後まで実施の有無が心配されました。神戸市内で感染が確認されてから全国的に拡大し、中止せざるをえない結果になりましたが、その代替として外国人を京都に案内して日本文化のよさを知ってもらう「国際交流ツアー in 京都」を企画しました。近隣校から数名の ALT に協力してもらって実施したところ、英語を使って交流する楽しい取組として好評を得ました。

平成 22 年度からは本校単独の海外研修として、毎年改善を加えながら実施してきました。例えば、もっと長く滞在したいという多数の要望に応じて実施日数を 14 日に増やし、大学での語学研修が充実しました。生徒達の行動範囲も広がり、期間の後半では現地の友人と活動する機会が増え、交流が深まっています。校長として再び着任した 2 年目の平成 26 年度からは 16 日間とし、これにより文部科学省から「短期留学チャレンジプラン」の助成を受けることが可能となりました。また、平成 25 年度からはSSH科学研修を西オーストラリア州立大学（工学・情報・数学部）と連携した内容に計画し、文化・語学研修コースとSSH科学研修コースの 2 本立ての企画として募集しています。特に、今年度は参加希望が多く、文化・語学研修コースは 30 名の募集に対して 46 名の応募、SSH科学研修コースでは 10 名の募集に対して 18 名の応募があったため、航空券の手配等の都合により希望者全員を引率することは困難となり、初めて選考を行いました。結局、過去最多の合計 46 名の参加となりましたが、希望者増加への対応は新たな課題として次年度に引き継がれています。

上記の通り、この 11 年間で振り返ると海外研修の取組は順調に成長し、在校生だけでなく受験希望の中学生にも広く周知され、本校教育活動の魅力の一つとして認知されるまでになりました。しかし、その成長の陰には、何も無いところから始めた頃の苦労、保護者の皆様（育友会）や同窓会の協力、生徒達の意欲、係わった多くの教員達の熱意と努力、現地の大学・教育機関や西オーストラリア州政府神戸事務所による支援等があったことを忘れてはなりません。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

さて、ここに平成 30 年度海外研修の報告集が完成しました。ご覧いただくことにより、参加生徒の大切な体験や思い出と共に、一人ひとりの確かな成長を感じていただければ幸いです。

今年度は文化・語学研修、SSH 科学研修ともに募集人数を上回る多くの希望者があり、本当は全員でオーストラリアに行きたかったのですが、選抜するための英語面接をやむを得ず実施しました。最終的に文化・語学研修 36 名、SSH 科学研修 10 名の計 46 名での海外研修となりました。大所帯での引率に少なからずの不安はありましたが、その不安は現地に行くとは全く感じないほど、研修生が頼もしかったです。まず、集合時間や規則をしっかり守ってくれたおかげで、一つひとつ細かいルールを定める必要がありませんでした。初日の空港での様子や CELT (州立大学英語教育センター) でのオリエンテーションを見て、「今年の研修生は今までとは違う。」とおっしゃった山上先生の言葉が印象に残っています。祥雲館の生徒は概しておとなしく控えめだと思っていましたが、見知らぬ人のテーブルに相席をお願いしたり、香港空港で隠せず買い物をしたりする姿には驚かされました。

私は学生の頃からカナダをはじめ、ヨーロッパ、南米など 10 か国以上の渡航経験はありましたが、オーストラリアは初めてでした。オーストラリアの方々はとても親切で、私の拙い英語でも最後まで耳を傾けてくれました。特に、現地で大変お世話になった CELT のスタッフはどの方も私たち引率教員に対して、温かい言葉をかけてくださり、研修生に対しても優しく熱心に指導してくださいました。時差もわずかに 1 時間で、留学するには最適の場所だと思いました。現地は冬でしたが、今年度はそれほど冷え込むこともなく、天候にも比較的恵まれ、当初の計画とはほぼ変わりなく進めることができました。また、オーストラリアは移民の国なので、実に様々な国の料理を味わうことができます。私は個人的にオーストラリア名物カンガルーの肉を食べましたが、ベネズエラ料理やトルコ料理、サハラ料理?にも挑戦できました。どれも大変美味で、またぜひ食べたいと思っています。

SSH 科学研修では、普段中々目にすることのない実験装置や、宇宙工学科での電波望遠鏡の学習、キングスパークで観察実習を通して、科学に対する学習意欲をさらに高めることができました。科学研修では専門用語が英語で飛び交い、戸惑う場合もありましたが、何とかくらいについて少しでも自分の知識に落とし込もうとする姿にいつも感心していました。10 日間があつという間に感じたようで、最終日には「帰りたくない」「来年もう一度参加したい」などという声が聞かれました。

私がこの研修を通して最も印象に残っているのは、最終日のホストファミリーとのお別れの時です。最後まで名残惜しく、中々帰りのバスに乗車しない研修生を見て、研修生たちはホストファミリーに本当の家族のように温かく接してもらえたのだなあと思いました。どの家庭に聞いても、今まで受け入れた中で一番だったという答えが返ってきました。いつまでも居てほしい。この子たちを日本に返すのが本当に惜しいとまで言って下さったご家庭もありました。パース空港に向かうバスの中で研修生がすすり泣く姿を見て、このオーストラリア海外研修は成功したと思いました。ただ、単に外国語を勉強したり、文化について学んだりすることは極端に言えば、日本でもできます。しかしながら、このような感動体験や実際に自分で何とかしないと行けない環境の中で、自分で考え自分で行動し、自分を見つめ直す体験は日本を飛び出してみないことにはできません。CELT での最終日にプログラムマネージャーのマシューさんは以下のようにおっしゃっていました。「ここにいる君たちは、本当に勇気がある。自分が生まれ育った場所を離れて、見知らぬ国で生活することは恐怖だ。そんな恐怖に自ら立ち向かい、克服した君たちは素晴らしい。本当によく頑張った。」その言葉を聞いている研修生の顔は輝いていて、自信と誇りに溢れる表情でした。

## 空港での様子



キャセイパシフィック航空



行きの搭乗前



機内食

Time	Flight	Destination	Gate	Status
10:20	JL 7052	Osaka/Kansai		Est 13:20
10:35	KA 810	Nanjing	3	Gate Change
	ZH 3472			
11:00	HU 8209	Nanjing	230	Gate Change
11:05	HX 1852	Taipei	28	Boarding Soon
11:10	HU 8052	Haikou	219	Gate Change
11:20	HU 8082	Sanya	217	Final Call
11:25	CZ 3078	Wuhan	508	Final Call
11:25	HX 658	Okinawa	203	Final Call
	9W 4800			
11:25	CX 5780	Kunming	34	Gate Change
11:35	KA 946	Xian	33	Final Call
	ZH 3476			
11:35	MU 2902	Wuxi	70	Final Call
11:35	GA 9400	Moscow	15	Final Call
11:35	UO 590	Nagoya	207	Final Call
11:40	CI 642	Taipei	45	Est 11:50
11:40	JL 7064	Osaka/Kansai	39	Final Call
11:40	UA 896	Chicago	42	Final Call
11:45	AK 139	Kuala Lumpur	214	
11:55	AA 8921	Chicago	24	Gate Change
12:00	CX 332	Beijing	2	
	KA 6332			
12:00	PG 4558	Bangkok	71	Boarding Soon
12:00	EY 4286	Los Angeles	202	Boarding
12:00	EY 6272	Kanoshima	202	Gate Change

Time	Flight	Destination	Gate	Status
12:05	MU 722	Shanghai/SHA	30	Boarding
	FM 722			
12:05	OM 268	Ulaan Baatar	229	Boarding
12:10	9W 077	Delhi	218	Boarding
	6F 6713			
12:10	KA 312	Busan	505	Gate C
12:10	KA 490	Taichung	508	
12:15	CX 239	London/LHR	41	
12:15	KA 378	Okinawa	48	
12:15	KA 620	Hangzhou	28	
12:15	KE 604	Seoul/ICN	18	
	CA 6526			
12:15	DL 7886	Jinjiang		
12:15	MF 8018	Taipei	88	
12:20	CX 406	Amsterdam	19	
12:20	KL 888	Xiamen	20	
12:20	MF 382	Singapore	16	
12:25	SO 891	Vancouver	213	
12:30	HX 080	Xiamen	509	Gate
12:35	KA 607	Chiang Mai	510	
12:40	KA 232			
	CX 5232			
12:40	KA 436	Kaohsiung	71	
12:40	MM 064	Osaka/Kansai	203	
12:45	CA 102	Beijing	28	
	KA 1102			

帰りの飛行機における大幅な遅延



Perth 空港にて



関空に無事に帰着

## オリエンテーションの様子



マシューさんによる説明



キャンパス内での昼食



キャンパスツアー（校舎案内）



キャンパスツアー（バス停案内）



キャンパスツアー（近くの公園）

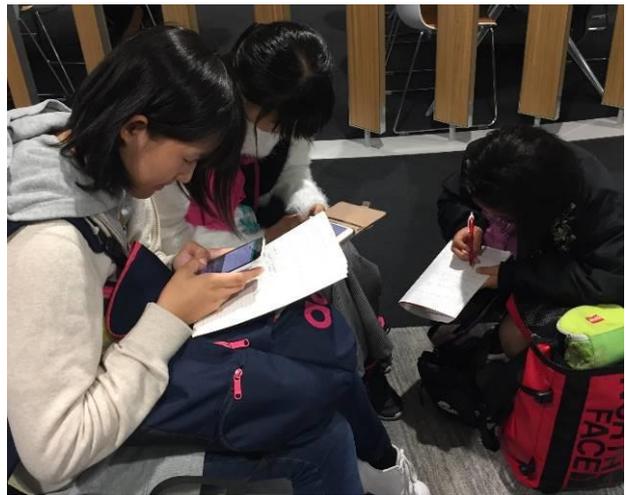


CELTにて集合写真

## 文化・語学研修の様子



授業の様子



インタビューへの事前準備



本キャンパスの図書館にて



本キャンパスでのインタビュー



最終日のプレゼン



Sarah 先生への感謝の輪

## SSH 科学研修の様子



顕微鏡を使った実習



コンピュータープログラミング



専門用語の事前学習



電波望遠鏡に関する説明



Kings Park 内の観察実習



Fantastic Physics Show

# 文化・語学

## 2018 オーストラリア海外文化・語学研修（概要）

1. 目的 (1) 本県と西オーストラリア州の友好関係を踏まえ、現地での研修を通して相互理解を深め、自他の文化を尊重する態度を育成する。また国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。  
(2) 実践的な英語運用能力を向上させることを通して、異なる文化的・言語的背景を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を涵養する。
2. 主催 三田祥雲館高等学校国際交流協会（取扱旅行代理店：東武トップツアーズ）
3. 期間 平成30年7月23日(月)～8月7日(火)（15泊16日（機内泊含））
4. 実施場所 西オーストラリア州立大学(UWA)英語教育センター(CELT)等（西オーストラリア州パース市）
5. 募集定員 本校1, 2年次生徒 30名程度  
参加者数 選考実施後 1年次25名（男子3名、女子22名） 2年次11名（男子3名、女子8名）  
計36名
6. 引率者 三田祥雲館高等学校教職員（前半2名、後半3名）
7. 費用 文科省の指定事業により後日一部援助あり。  
その他、パスポート取得費用・海外旅行保険・個人的な費用・国内移動費用が必要。
8. 研修日程

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	実施内容
1	7/23(月)	三田祥雲館高等学校 関西空港 → パース	05:40 22:35	貸し切りバス使用 香港経由
2	7/24(火)	UWA (CELT)	9:00 13:00 17:00	午前：オリエンテーション 午後：語学研修 ホストファミリーと対面
3	7/25(水)	UWA (CELT)		終日：語学研修
4	7/26(木)	UWA (CELT)		終日：語学研修
5	7/27(金)	Butler College		終日：現地校交流
6	7/28(土)			終日：ホストファミリーと過ごす
7	7/29(日)			終日：ホストファミリーと過ごす
8	7/30(月)	UWA (CELT) Caversham Wildlife Park		午前：語学研修 午後：ワイルドライフパーク研修
9	7/31(火)	John Forrest Secondary College		終日：現地校交流
10	8/1(水)	UWA (CELT) Kings Park		午前：語学研修 午後：キングスパーク研修
11	8/2(木)	UWA (Crawley) Parliament House Tour		午前：UWAにてインタビュー 午後：州議会見学
12	8/3(金)	UWA (CELT) Fremantle		午前：語学研修 午後：Fremantle 見学
13	8/4(土)			終日：ホストファミリーと過ごす
14	8/5(日)			終日：ホストファミリーと過ごす

15	8/6 (月)	UWA (CELT)	9:00	プレゼンテーション・修了式
			20:00	ホストファミリーとお別れ
		パス発	23:55	空路、香港経由帰国の途に
16	8/7 (火)	関西空港着	15:05	バスにて学校へ
		三田祥雲館高等学校	17:40	19:30 関空着 21:50 学校着

## 研修報告

- ・今年度は定員 30 名のところに 48 名が希望 (SSH 落選の 2 名含む) 。旅行社を通じて飛行機の座席を 6 席追加した。面接等の選考を行い、最終 36 名が参加となった。
- ・16 日間の長期だったが、目立った体調不良者もなく、無事に終えることができた。

## 成果と課題

### 1. 参加人数の増加

昨年度は参加者が 29 名だったが、今年度は SSH と合わせて 64 名の応募があり、最終 46 名の参加となった。人気の上昇とともに、参加人数、引率者の人数なども含めて来年度以降の体制を十分検討する必要がある。

### 2. 語学研修としての研修効果

コミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢は身についた。具体的には、間違いを恐れることなく英語で発言していく力やわからないことを聞き直すなど基本的なやり取りをする力は身についた。後半は授業外でも生徒同士英語で会話するように促すと頑張ってチャレンジする生徒が多かった。

参加生徒の英語力は以前よりも高くなっている。現地でのプログラムを見直し、生徒の現状に合わせてさらに語学研修としての効果が高まる研修としたい。現地だけでなく出発前の事前学習から英語で行い、帰国後の報告等もすべて英語で行うなど、全体の計画を見直したい。



ホストファミリー



楽しいランチ



CELT での授業



Butler College との学校交流



集合写真

1. 目的 (1) 西オーストラリア州立大学の施設・設備や近郊の施設を利用しての天文学実習、生態調査、資源採掘実習、大学研究室での実験実習など西オーストラリア州の特性を生かした研修を通して、最先端の科学や技術を体感し、自然科学に対する関心や学習意欲を高める。  
(2) 現地中等教育学校生徒との協働学習や西オーストラリア州立大学での実習、また実習の事前研修を含む西オーストラリア州立大学英語教育センターでの科学技術英語実習を通して、将来国際的に活躍できる科学者・技術者として異なる文化的背景を持つ人々と協働するための豊かな国際感覚と英語運用能力を身につける。
2. 主催 三田祥雲館高等学校国際交流協会 (取扱旅行代理店：近畿日本ツーリスト)
3. 期間 平成30年7月23日(月)～8月1日(水) (9泊10日 (機内泊含))
4. 実施場所 西オーストラリア州立大学 (工学部・英語教育センター) 等 (西オーストラリア州パース市)
5. 募集定員 1年次 科学技術分野に興味を持つ生徒 2年次 理系生徒 計10名  
参加者数 選考実施後 1年次8名 (男子6名、女子2名) 2年次2名 (男子2名) 計10名
6. 引率者 三田祥雲館高等学校教職員 (2名)
7. 費用 SSH事業の補助あり。  
その他、パスポート取得費用・個人的な費用が必要。
8. 研修日程

日次	月日 (曜)	訪問先等 (発着)	現地時刻	実施内容
1	7/23 (月)	三田祥雲館高等学校発 関西空港 → パース	05:40 22:35	貸切バス使用 香港経由
2	7/24 (火)	UWA英語教育センター(CELT) UWA(Crawley) CELT	09:00 13:00 17:00	(午前) オリエンテーション (午後) UWA 工学部物理学科 ホストファミリーと対面
3	7/25 (水)	UWA(Crawley) UWA(Crawley)	09:00 15:30	(午前) UWA 工学部宇宙物理学科 (午後) UWA 工学部都市環境鉱業学科
4	7/26 (木)	UWA(Crawley) Kings Park	09:00 15:30	(午前) UWA 工学部植物生物学科 (午後) Kings Park 実習・観察会
5	7/27 (金)	現地校交流 (Butler College)	09:00 16:30	発表会・交流会・実験実習・協働学習
6	7/28 (土)	パース市内		(終日) ホストファミリーと過ごす
7	7/29 (日)	(自由行動)		プレゼンテーション準備
8	7/30 (月)	UWA(Crawley) UWA(Crawley)	09:00 15:30	(午前) UWA 工学部 (プログラミング) (午後) UWA 工学部
9	7/31 (火)	CELT CELT 発 パース発	09:00 20:00 23:55	研修成果プレゼンテーション・修了式 ホストファミリーとお別れ 空路、香港経由関西国際空港へ
10	8/1 (水)	関西空港着 三田祥雲館高等学校着	15:05 17:40	入国手続き・貸切バスにて学校へ

## 研修報告

- ・昨年度はSSH として募集したが1名しか希望者がおらず、実施できなかった。
- ・今年度は日程を16日間から10日間に短縮、参加対象を2年次限定から1年次中心に1・2年次両方から募集した。その結果18名の希望者があり、面接等の選考を行い、10名が参加した。
- ・大きなトラブルなく無事に全日程を終了することができた。

## 成果と課題

### 1. 実施したことによる経験値・積み重ね

一昨年度まで4回西豪州でSSH研修を実施していたが、昨年度は実施できなかった。今年度実施できたことで経験を積み重ねることができた。特に、過去の4回と大きく異なるのは1年次生を参加対象の主体としたこと。その結果参加人数を確保することができ、年度末の探究成果発表を中心としたSSH台湾研修（2年次生対象）との差別化を図ることができた。

### 2. 科学研修としての位置づけ

海外研修ということでホームステイ、異文化交流ということも大切だが、UWAで行う科学研修によってSSH研修としての成果が十分にあげられたかどうかは今後アンケートなどをもとに振り返る必要がある。後述する英語力の壁も次年度以降の改善が求められる。

### 3. 英語による研修としての難易度・生徒の英語力との差

1年次生の英語力では専門用語が多い科学研修の内容をその場で理解することはかなり困難なことが多い。日本で事前に教材を入手し、事前学習等で予備知識を習得しておくことが必要だと考えられる。



宇宙工学科で電波望遠鏡等の学習



工学部鉱業学科での研修



光合成の実験



キングスパークで観察実習



Butler College で協働実験

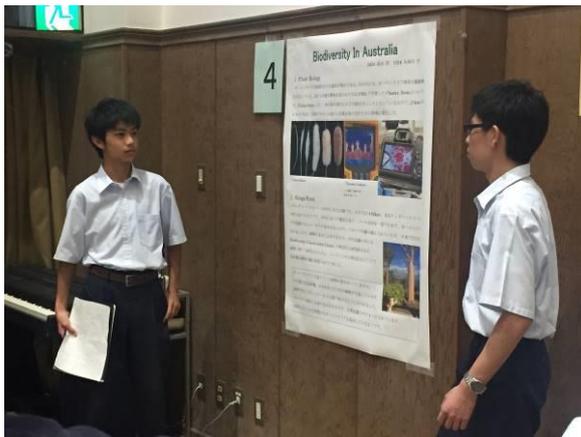


最終プレゼンテーション

# 海外研修を終えて

## (参加生徒 46 名による報告)

- SSH 科学研修(10 名)..... p.12 ~ p.21
- 文化・語学研修(36 名)..... p.22 ~ p.57



9月に行われた海外研修報告会のポスター発表の様子



海外研修報告会の口頭発表の様子



研修生の発表を聴く保護者の様子

僕が一番印象に残っているワークショップは、一番初めの物理についてのワークショップです。なぜかという、あまり得意ではないうえに慣れていない英語での授業だったけれど、多くの事を理解出来たからです。この時は英語を理解出来たわけではなく、実験が多くて、その中で単語を聞き取ることができ、なんとか理解した位でした。この時に少し科学の楽しさを感じました。それは、何を言っているか分からなくても、実験をすれば大体を理解することが出来ると分かり、驚いたからです。物理の実験で、液体窒素を使った実験があり、これは花などを液体窒素につけて握り締めると一瞬で粉々にすることが出来るというものでとても驚いたのと、面白いと感じてもっと知りたいと素直に思ったのを覚えています。

次に現地での交流ですが、Butler College で現地の生徒と交流が出来ました。初めの方は緊張していてあまり喋ることが出来なかったけど、むこうから話しかけてきてくれてとても仲良くなる事が出来ました。知らなかったゲームも教えてもらいました。ルールを教えてくれるのですが、全部英語なので、聞き取るのも理解するのも大変でした。また、ホストファミリーと公園でサッカーをしている時に、同じ学校の子が来て一緒にサッカーをしました。初めは僕達を避けていたけど、サッカーをしている内に打ち解けてよく喋りました。とても速くて聞き取れなかったけどゆっくり喋ってくれて楽しく会話出来ました。友達は三人位いたのですが、一人はオーストラリア、もう一人は色白で、またもう一人は色黒で、オーストラリアの多様性がよく伝わってきました。

オーストラリアと日本で違う所がありました。一番はやはりシャワーです。五分以内に入らないといけなかったからです。水不足が重要な問題になっていることを知りました。植物に関しては、日本とは比べものにならないくらいの種類があり、またそれらをととても大切にしていることです。水不足だけど植物にはたっぷりの水を与えていることから大切にしているということが分かりました。

最後にこの研修を通して大きく成長することができ、またそれは、もっと成長出来るスキルになったと確信しています。第一に自分から話しかけるようになって、コミュニケーションのとり方を学びました。そして、話しかけると聞こうとする姿勢に自然となって理解しようと努め、わかりやすくなる事を知りました。第二に、異文化と聞いて、少し不自由な暮らしになってしまうのではないかと心配でしたが、何一つ不自由なく過ごす事が出来ました。これは、話し合いによって不自由がなくなったと感じました。

このように、自分が何もわからないのであれば、まず話しかけてみる。そしてよく聞いて理解して、納得できなければどうすれば良いかを話し合う。これが一番大事だと知り、実行出来るようになった事が成長です。



## 私が SSH 科学研修で学んだこと

1年次 男子生徒

今回、この SSH の科学研修に参加することができてよかったと思います。まず始めに科学実験や科学についての学習の感想を話していこうと思います。一日目は物理に関する実験とオーストラリアの「square kilometer array」について学習しました。物理の実験は私が、一番興味を持っていたものだったのでとてもたのしむことができました。内容は中学の頃に学習した磁石の特性を利用した実験に液体窒素が加えられた応用実験や運動の法則に関するエキサイティングな実験などがありました。また、「square kilometer array」はオーストラリアを代表する宇宙観測器で、その観測機器はオーストラリアならではの広い土地を活かせる観測器となっていました。この調子で書くとはいらなくなってしまうのでここで今回の紹介はやめますが、約一週間オーストラリアで科学について実験、学習できたことはとても良かったです。私は将来、宇宙物理について学習し、宇宙エレベーターを作ることができたらいいなとおもっています。

今回の科学研修で学んだことは実験を楽しんでするという事です。実験を紹介してくれるオーストラリアの学生はほとんどの人が自分の行っている実験を楽しみながらしていたり、説明をするときでさえも楽しんで説明したりしていました。それから私は研究というものは楽しみながら、そしてポジティブに行うことが大切だということ学ぶことができました。



オーストラリアに行って始めに実感したことは、「これからホントに英語を聞き取れるようになるのだろうか」という不安感でした。しかし、そんな不安も二日目には解消され、自分から話していく内にどんどん聞き取れるようになっていきました。

最終日に近づくにつれて、積極的に話しかけられるようになっていき、バトラーカレッジでは新しく友達ができたりするなど、「このままずっとオーストラリアにいたい！」と思うほど成長していきました。

人との交流に関しても行く前と行った後では信じられないくらい成長したと自分では思っています。これからは、このプロジェクトで手に入れた感覚や考えを忘れずに学校生活や将来の夢のために活かしていけたらいいと思いました。

私は海外に行ったことがなく、今回が初めてでした。行きの飛行機の中での機内放送があまり聞き取れず、10日間過ごせるのか少し不安になっていました。ですが、実践的に英語を使えるとても良い機会であり、英語力をつけるために自ら積極的に英語でコミュニケーションを取ろうと決めていたので、お店のレジや、ホームステイ先でもたくさん話をしました。又、どのバスに乗ったらいいのか分からない時は、近くにいる人に尋ねたり、どこから来たの？と声をかけられたときは質問に答えるだけでなく、話を膨らませたりしました。帰りの飛行機では、行きの飛行機で聞き取れなかったものも聞き取ることができ、英語運用能力が上がったように感じます。

今回の海外研修を通して、科学に対する興味関心が高まったと共に、英語はこれからの時代、必ず必要になるものだと強く感じました。内容を理解するために、メモを取ったり、疑問に思ったことは質問したりしました。ですが、話を聞く中で、単語がわからないがために理解できず、想像している部分も多々ありました。

ホームステイ先に帰り、単語を調べたり、ホストマザーと一緒にホームステイしていた中国の方と実習の内容について話すことで、実習の内容を理解したり、そのことについて新しい知識を得ることができました。様々な実習をしましたが、その中でも特に、液体窒素の実習が印象に残っています。凍らせたボールをそのまま投げたらガラスのように割れました。ですが、少ししたら弾性が戻り、元のボールに戻りました。液体窒素は様々なことに使われ、普段から見ているものだけど、不思議で、面白いなと思いました。

現地で Butler college で同年代の生徒との交流をしました。私たちが日本語で話す感覚で話しかけてくるので、内容を理解させるために大切なところを強調したり、ゆっくり話したりしてくれる実習とは違い、聞き取るのが大変でした。とてもフレンドリーで、始めは1対1で話をしていたのに、その友達がどんどん集まってきて、最終的には10人程の輪になって話をしました。たどたどしい英語を理解して話そうとしてくれて次第に仲良くなりました。今度日本に来るらしく、また日本で会うと約束をして、私が帰国してから連絡を取っています。連絡をとっているときに、日本語に略語があるように、英語の略語で文章を送ってきたので、どのような意味なのかわかりませんでした。実際に英語圏の人と話すことで、文章としての文法的なものだけではなく、実際に使われている言葉を知ることができました。

今回の研修は様々な方々の協力のおかげで、無事成功することができました。この研修に携わってくださった全ての方に感謝しています。科学を学びたいと思う気持ちがより強くなりました。今回の研修を通して学んだことを忘れず、この貴重な経験をこれからの自分の成長に生かしていきたいです。

最初、私にとってオーストラリアはいわば未開の地でした。学校で習うのも大体東オーストラリアのことばかりで、特に西オーストラリアなど、本当に人が住んでいるのかというようなレベルで、出国前はどんなところだろうという好奇心に包まれていました。しかし、いざオーストラリアについてみると毎日が冒険の様な日々でした。美しい街並み、広大な自然、フレンドリーな人々。すべてが魅力的なものばかりでした。

今回私が行ったのはあくまで文化研修ではなく科学研修。毎日の実験もとても印象的でした。特に印象に残っているのはバトラーカレッジでの実験体験です。そこでは様々なものの燃焼反応を観察するという実験をしました。オーストラリア人のペアと日本人のペアが一緒となって協力して実験をしていくという形でした。おそらく初対面の日本人同士だったら、すぐに打ち解けることはなく実験もスムーズに進むこともなかったでしょう。しかしバトラーカレッジの生徒はとてもフレンドリーで、積極的に話しかけてきてくれて、すぐに仲良くなれたことを覚えています。実験については、一応説明はあったものの、英語だったので私はほとんど理解することができませんでした。しかし、バトラーカレッジの学生がとても丁寧に説明してくれたので概ねの内容は理解することができました。そして、実験もかなりスムーズに進みました。また、英語がわからない、いわば足手まといの私たちにも、仕事を与えてくれて楽しく接してくれたことが嬉しかったです。

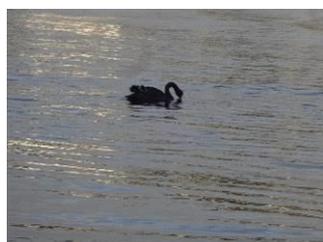
もう一つとても印象に残っている実験があります。それは、UWAのクロウリーキャンパスでした、石油の掘削をするジャケットと呼ばれる構造物のミニチュアを制作するというプログラムです。何本かの木の棒と粘土でジャケットを作り、その上におもりを乗せ、どのぐらいまで耐えられるかという流れで、私たちは試行錯誤してそれを作りました。それまでずっとひたすら説明を聞くものだと思っていた私にとってはその授業はすごく衝撃的でした。こういうとても考えさせられる授業もあるものなんだなと感じました。

他にも、物理の授業や、植物の授業、宇宙の授業など様々な魅力的な授業がありました。そのなかで、私の英語力や科学に対する多角的な考え方も得られたと自分では感じています。このオーストラリア科学研修は私にとってとても有意義なものとなったと考えています。

しかし正直、この海外研修だけでは英語の運用能力は大きく伸びないのだと思います。いわばこれは導入のようなもので、大切なのはこれから私がどのような姿勢で英語を勉強するかなのだと思います。もちろん真摯に英語を学びたいと考えています。そう感じさせてくれた海外研修を実施してくれたことに感謝します。貴重な体験をありがとうございました。

僕は今回の海外研修、特に Kings Park で施設を見学したことを通して科学への関心が深まりました。なぜなら通常植物園などを見学するときと違い、その裏側まで知ることができたからです。また、案内をしていただいた方は少し早口だった印象がありましたが頑張って質問をし、自分にとって新しい事実を知ることができたので面白かったです。中でも食虫植物について驚くことができました。

最も印象に残った活動はすでに挙げた通り Kings Park ですが、プログラミングについても少し気になりました。僕は三田祥雲館高校で科学部に所属しているため小・中 学生にプログラミングを教える機会がありますが、そこで使用するものと大学で用いられていたものは基礎的な部分にはよく似ていたと感じました。もちろん機能の違いはありましたが、今世界中で同じような能力が求められているということを知ることができ、スタートラインはほぼ同じなのでより一層この分野に興味を持ってもらいたいと考え直しました。



ほかにもホストファミリーとスワン川の近くを散策したときにも様々な発見がありました。代表的なものは海に近いところの川の水がほぼ海水だったことです。ホストマザーが説明してくれたところによると、たまに海にしかない生物も見られるそうです。木の大きさは文化の違いだけが理由ではないそうなので詳しく知りたいと思いました。

しかし、今回の研修では何もかも上手いだったとは考えていません。英語と共に過ごす上で困ったこともいくつかありました。まず、僕のホストファミリーの家では2匹の外見がほぼ同じの犬を飼っていて、しかも性別が違ったのでどう呼んで良いかわからなかったことです。犬といっても家族ですのでitとするのもどうかと思っていたのでhe にしようか she にするか名前で呼ぶかとも迷いましたが最終的には名前で呼ぶ方向で解決しました。このことからわかる通り文章中ではよく代名詞を使いますが会話では何となく使いにくいという印象がありました。名前を何度も聞きなおしてくる人は日本人でも少し印象が悪かったりしますし、会話を繋げていくためにも相手の名前だけは確実に聞き取れるようにしたいと思いました。また税金について調べておいた方が良かったなと反省しています。外国の人がいきなり日本に来て100円の物を買って108円要求されたら驚くように世界には様々な国があり、日本では咎められないことでも捕まってしまうかもしれません。次の機会からは十分注意しようと強く思いました。

今回の一番大きな気づきは第二言語の難しさを知ることが出来たことです。これをきっかけに日本にいる外国の人がどれだけ難しいことをしているかということを本当の意味で理解することが出来、慣れないながらも一生懸命伝えようとする僕らを温かく学ばせてくれたホストファミリーや関わってくれた人々に感謝できました。

最後に、これからの目標は、日本語でも英語でも変わらずに人の意見を理解しようとすることです。もちろん今までこれをしてこなかったというわけではありませんが、日本語以外で生活をしてコミュニケーションを取る上でこれほど重要なことはないかと改めて感じました。進路について悩んでいたこの時期に普通の高校生活ではできないような貴重な体験ができました。このことは僕の進路を決めるときとても大きなきっかけになりますし、実際にやりたいと思うようなことも出来ました。僕にとって今回の研修は人生を変えるものだったのではないかと思います。本当に行くことが出来て良かったです。

## 私の異文化体験

1年次 男子生徒

I spent a very good time in Australia. I was worried about the trip before my visit to Australia because I cannot speak English very well. But people in Australia were so kind and friendly. They speak slowly for me when I could not understand, and they listen to my words carefully, so my worries had disappeared. Australia is a multi-ethnic nation, so people have many kinds of cultures.

I enjoyed difference of cultures.



I have been interested in biology, so I enjoyed experiments of biology workshop. I researched determination of the osmotic concentration of aqueous solutions.



I learned another several workshops. Physics workshop was the most exciting.

I could do five different experiments dynamics, superconductivity, magnetic force, and liquid nitrogen myself. I learned that liquid nitrogen makes magnetic force stronger. I was surprised when I heard it. Through the workshop, I came to like physics.

My homestay life was very good. First day, I was nervous but my homestay families were kind and fun, so I could enjoy talking with them. My host mother was very good at cooking and her daughter played soccer skillful. I played soccer with her. I want to meet them again.

Through this trip, I think I have to study more vocabulary because when I talked with my host family, I said the same answer like "wonderful, interesting". And I have to talk more actively. I want to go abroad after I achieve my goals.

私はこの研修を通して意欲的になりました。例えば、分からない単語があればすぐに調べるようになったし、興味を持つようになりました。また、サイエンス能力を伸ばす・英語の能力を伸ばすということも達成できたと思います。休日、少しでも分からないことがあれば質問したりとかして、コミュニケーション能力も上がったと思います。オーストラリアのUWAの人たちが、未熟な私たちに丁寧に英語で話してくれて、理解することは本当に難しかったです、良い経験になりました。

一番印象に残っていることは、UWA工学部物理学科で物理学の実験をしたことです。様々な実験を見た中でも静電誘導起電機に興味を持ちました。磁界の向きや磁石の特徴、磁石の強さなどのことが分かりました。内容を理解することはとても難しかったけど、知っている単語を頑張って聞き取りました。

国際的な視野では、多様な文化を感じることができました。でも、食事の文化・生活の文化などと戸惑うこともたくさんありました。例えば、水問題なのでシャワーの時間を短縮しなければならない・バスでは次の停留場を言わないなどがありました。不便だと思うこともありましたがこれもよい経験になりました。

印象に残っていることは、

- ① ショッピングセンターでチョコの詰め放題をしたこと
  - ② 大学とホストマザーの家が近すぎたこと
  - ③ 家で中国人の方とたくさん話せたこと
  - ④ 女子トイレと男子トイレが分かりにくかったこと
- です。

困ったことは、

- ① リンゴまるまる一個渡されたこと
  - ② 苦手なイチゴを毎日渡されたこと
  - ③ ごみの捨てる場所の分別が分かりにくいこと
  - ④ たくさん通りがあって分かりにくいこと
- です。

最後に、海外研修に行く前に目標にしていた「英語のスキルを伸ばす・理科の知識幅の拡大・ただオーストラリアの文化を学ぶだけではなく日本の文化を伝える」ということについては、達成できたと思っています。達成できたのは、自分の力だけでなく家族や先生の力があってからだと思っています。こんなにも、良いプランがあってこそこの目標が達成できたのでありがとうございます。本当に短い期間でしたが、SSHの仲間のみんなとも仲良くできて最高に楽しかったです。この経験は、学校生活・日常生活にしっかりといかしていきたいです。

今回のオーストラリア海外研修では、まず教科書上のもので、頭の中でしかのいわば空想のようであったオーストラリアという国を知ることが出来ました。以前は、1つの大陸が国になっていて、日本とは季節は逆になること。そして都市については、主にならうことはパースではなくシドニーやキャンベラで西オーストラリアでは食文化や生活についてはまったく分からないという状況でした。ですが実際は、レンガ造りの建物や現代的なガラス張りの建物が並び、住宅街では、遠くヨーロッパのイギリスを思わせるような広い敷地を持つ家が並び、日本とは異なり国土が広いことの利点を実感しました。オーストラリアの町で、驚いたことはパースではビルが立ち並ぶ都市でありながら、少し離れると緑が豊かで、この事から自然保護の意識が強いのだと感じました。ホームステイでの生活では、自分の英語が伝わるのだろうかや、上手く聞き取れるのか全く自信がありませんでした。しかし、いざ始まると分かりやすいように少しゆっくり話してくれたので、生活しやすかったです。オーストラリアでの食生活は、本当に国際色豊かでした。ホームステイ先での食事は、カレーが出る日も有れば、肉料理、イタリアンの日もあったからです。休日は、フリーマントルとパース市内の観光、水族館に行きました。まず、パース市内では、デパートやスーパーマーケットをめぐるしました。デパートでは、服がメインで、食事などの店が見当たりませんでした。その後、ウールワースというスーパーマーケットに行きました。ここでは、商品を探すときに店員に聞くことで英語力が鍛えられたと感じます。

UWAでの活動で今まで興味がなかった分野まで話を聞くことができ、驚きや新たな興味がわきました。例えば、鉱業の分野で石油プラットフォームを支える櫓を、ジャケットと言うことです。その後、実習でジャケットを作ってみました。あまり上手くはいきませんでした。優秀だった班の物は、三角柱の物でした。上手く圧力が地面で分散するような構造が、有利であるのだと学びました。

天文学では、コンピューターシミュレーションを利用した、銀河形成の謎に迫ることをしている研究者の戸次さんに出会いとても刺激を受けました。その後、オーストラリアの土地を生かした電波天文学を工学面から見た説明で、小さな電波望遠鏡をつなげ巨大な望遠鏡にする技術を聞きその原理に興味を持ちました。

植物では、専門用語が多く理解するのがしんどい時も有りました。そして、驚いたのが顕微鏡に一眼レフカメラや 아이폰 を接続できたことです。今までは、スケッチをしていて自分はあまり上手くなく、細かいところが分からないことがありましたが画像化したことでより細かいところまで見る事が出来、やりやすいと実感しました。そして、外にはビニールハウスが有りそこでは、研究対象となる植物を育てていてとても面白かったです。

プログラミングでは、今までロボ班の見学をするだけで、最初は多くの記号を使いとても難しいもと考えていましたが、今回体験して、タグをつなげていだけでとても簡単なものもあるのだということを感じました。ですが、動きを予想してプログラミングを組まなければいけないので頭の中でイメージをしながらするのは、少ししんどかったです。うまく帰ってきたときにはとても達成感がありました。

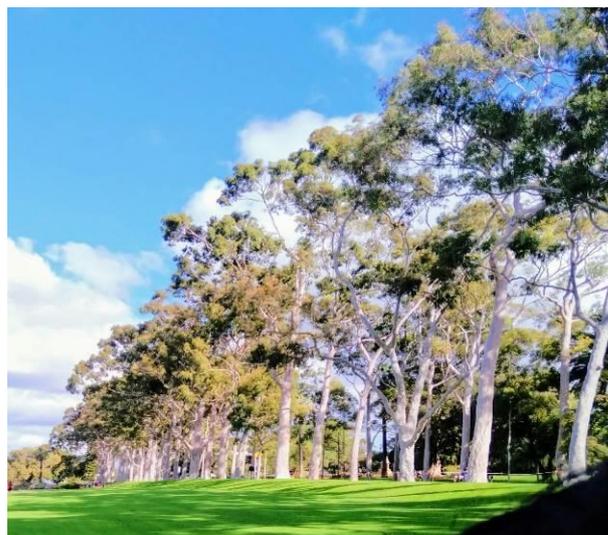
今回の研修では、よりいっそう科学への興味が深まりました。今後、この体験を通じてより科学の知識を深めて生きたいです。

西オーストラリア海外研修において自分を最も成長させたプログラムは「ホームステイ」でした。ホームステイにおいて英語の使い方はもちろん、日本とは異なる文化を知り、コミュニケーションの面白さに触れることができました。

私はホームステイが不安でした。ただでさえ日本でも他人の家に泊まることは少ないのに、文化や考え方の違う、しかも初対面の人の家に泊まるのが本当に不安でした。自分のしたことがホストファミリーの逆鱗に触れてしまうのではないかと、などと思っていました。そこで、不安の中で少しでも頑張ろうと思えるように1つの目標を立てました。それは、「『ありがとう』は世界共通だ！1日20回は”Thank you.”と言おう！」です。多すぎかな？僕はそう思っていたのですが、実際に1日40回は‘Thank you.’ ‘Thanks.’と言っていました。作ってもらった料理に‘Thank you.’ サプライズプレゼントに‘Thank you.’そしてどういたしましての‘Thank you.’この目標があったおかげで最初から最後まで笑って過ごすことができました。‘Sorry.’なんて必要ありませんでした。オーストラリアには優しい人ばかりでした。

SSH 科学研修のプログラムの中でもっとも興味を惹かれたのは「植物」の授業です。このプログラムにおいて私はオーストラリアの自然の壮大さを実感し、日本との自然に対する考え方の違いに気づくことができました。私は研修に行く前からオーストラリアの豊かな自然に興味を持っていました。オーストラリアの固有種を顕微鏡で観察するなど、日本ではできない実験をした「植物」の授業はとても印象に残っています。オーストラリア特有の日差しや暑さを乗り越えるために植物が自身の体温を下げようとする働きをサーモグラフィカメラに通して見た実験はとても魅力的でした。

研修中私はシャワーを5分間で浴びるように言われました。その大きな理由には水不足がありますが、自然保護もその1つのです。加えて国民のリサイクルに対する意識が強いことが街の色分けされたゴミ箱からわかりました。国民1人1人が自然豊かなオーストラリアを守ろうとする姿勢を感じました。



この研修の中で一番印象に残っているのが物理の実験です。特に右の写真の実験が印象的でした。この実験は水の入ったペットボトルに液体窒素を入れ、それらを混合させて気体を一瞬のうちに膨張させるというものでした。とても興味深くて、液体窒素を他にどのようなものへ利用できるのか。また、液体窒素を用いることで磁力よりも強いを発揮する超伝導体にも興味を持ちました。



【液体窒素を使った沸点の実験】

「トムソンリングの実験」というものも興味深かったです。超伝導体を液体窒素の中に入れて後に電気を流すと、磁力反発が生じ上向きに力が働いて、高くリングが飛び上がるというものでした。これを向こうで見て、英語の説明を受けた時に、あまり理解できず衝撃と疑問だけが残りとても刺激を受けました。オーストラリアに行く前は、物理というものがここまで奥深いものだとは知りませんでした。そのため、自分の知識の足りなさを感じたので、もっと勉強していろいろな分野を知ろうと思いました。

実際にホームステイをしてみて、自分の英語がどの程度伝わるのか不安でしたが、思っているよりも簡単に伝わったので驚きました。英語のリスニング能力や英語の意味を感覚的に理解することは、英語で会話をしていくうちに身に着けていくと思いました。できないと思っていた瞬時に英語の文章を作って話をすることでさえも、簡単な会話ならある程度はできるようになりました。逆に日本で発音していた英語が発音と異なったりしました。僕は、ショッピングモールではトイレのことを「RESTROOM」と表記するものとおもっていましたが、実際は「Toilet」と表記していたので驚きました。そのことから、海外はこうであるという自分の固定観念にとらわれてはいけなかったと思いました。それに、これからは、自分の視野を広げ、いろいろな現象について考えていきたいと思いました。

他にもオーストラリアで生活をしてみて、バスの乗り場が日本の物と違ってたくさんあり、バスの番号の種類もいっぱいありました。それに神姫バスなどとは違って、次のバス停をアナウンスすることはなく、とても静かな車内でした。そういうこともあって、外の景色に気を払う必要もあり、よく降り場所を間違えてしまいとても苦労しました。また、向こうの道路は日本の物より横幅が広く、ゆとりをもって走行するのをうらやましく感じました。

それら以外にもオーストラリアで生活することにより、多くのことを学ぶことができました。これからは、学んだことを生かすために努力をしていきたいです。そのためにもオーストラリアで培った英語を今よりも鍛えていきたいと思います。



私が海外研修に行ったことで一番変わったと思うことは自分に自信がついたことだと思います。海外研修3日目の朝、学校に行くときに電車を乗り過ごしてしまいまったく知らない駅に行ってしまったことがありました。前日の朝はホストマザーに連れて行ってもらい、私たちで行くのは初めてでした。もうホストマザーには頼れない状況で私は駅にいた女性に英語でどの電車に乗ればよいか、どのホームにおいればよいかなどを聞き、無事に学校に着くことができました。15分遅刻してしまいましたが、この経験により「困ったことがあればきけばいいんだ。拙い英語でもちゃんと通じる。それにとても親切に教えてくれるんだ。」と思い自信がついた瞬間でした。それからのUWAの大学生へのインタビューなどでも率先して行うことができました。また、私は初めて16日間という長い期間家族のいない場所で過ごしたことも大きな自信になりました。1日目は異国の地で言葉が通じないという不安から家に帰りたいていしまいました。そんな私も日本に帰るときには「楽しかったあ。もっとオーストラリアで英語を勉強したいな。」と思うようになっていました。オーストラリアにはバディもいてホストマザーもいて友達もいて先輩、先生もいる。相談できる人がたくさんいるので何があっても心配することはないと思うようになって16日間不安もなく過ごすことができました。

私がオーストラリアで魅力を感じたことは、毎日の食事です。私が一番おいしいと思ったのはオーストラリアで有名な料理のミートパイです。ミートパイはホストマザーの家や John Forrest Secondary College, Fremantle などさまざまな場所で食べる機会がありました。特にホストマザーの家で食べたミートパイは作り方を教えてもらいながら一緒に作ることができました。家でも作って家族にも食べてもらいたいと思いました。オーストラリアでは語学勉強だけでなくオーストラリアの食文化を学び異文化理解がしっかりできたと思いました。

私が思うオーストラリアのオススメの場所は Fremantle です。Fremantle には Perth City のようにスーパーマーケットやショッピングモールがあります。しかしそれだけでなく Fremantle には Market があります。Market にはさまざまな種類のオーストラリアの食べ物やお土産が売っていました。お寿司もその Market には売っていました。子供がピアノを弾いて遊んでいる音や、ギターのコサートをしている音、子供におもちゃを売るおじいさんの声などさまざまな音が聞こえ、にぎやかで楽しい雰囲気でした。あまり日本では経験できない場所だったのでとても楽しかったです。また行きたいと思いました。

私のホームステイ先は一人暮らしのおばあちゃんでした。バスルームやベッドルームが3つもあるような大きくきれいな家でした。家の近くには娘家族が住んでいて、ホストマザーの孫である1歳と3歳の男の子ともたくさん遊ぶことができました。また、「好きなことは何？」と聞かれ「お菓子を作ることが好き。」と答えたことがきっかけで一緒にケーキを作ることができました。私が日本で作るお菓子とは違う部分もあって、生地を自動で混ぜてくれる機械があるなどとても楽しい経験ができました。他にも、動物園に行ったり、ゲームをしたり、バーベキューをしたり、誕生日会に行ったりと書ききれないほど多くの経験をすることができました。海外研修に参加したことで、目標である英語の勉強、そしてオーストラリアの文化をしっかりと勉強することができました。それだけでなく、親のいない場所で暮らしたことで大きく成長できたなどいいことばかりだったと思います。この経験を糧にして、これから先部活や勉強さまざまなことを頑張っていきたいと思いました。

### <内面的に変わったこと>

私は中学1年生の時に、当時住んでいた市の姉妹都市への派遣プログラムとしてアメリカのオリンピア市にホームステイをしました。当時は英語力もあまりなく、自分から積極的に話すことができませんでした。だから、今回は自分から積極的に話しかけることを目標に語学研修に行きました。現地では、一步踏み出して話しかけ、言いたいことが伝わった時はとても嬉しかったです。これまでは文法が間違っていたりしてうまく伝えられなかったらどうしようと思っていましたが、それよりも伝えようとする姿勢やコミュニケーションを図ることが大切だと学びました。また、英語が話せるようになると外国の人と繋がることができ、外国にも目を向けられるようになると思います。そして更に英語を学んで、英語で会話ができる楽しさを教える仕事に就くことも1つの道だと思うようになりました。

### <おすすめの場所 フリーマントル>

オーストラリア滞在中、フリーマントルに何回も行きました。フリーマントルには金、土、日だけ開かれるマーケットやお土産店、スーパーなど多くのお店が集まっています。私は、フリーマントルで主にお土産を買いました。また、ゲームセンターには実際にジェットコースターに乗っているように上下左右に動く VR の乗り物がありました。珍しいと思ったので乗ってみると、少し酔いそうでしたが、本当にジェットコースターに乗っているような気分を味わうことができ、楽しかったです。また、フードコートには世界各国の料理のお店があるので色々な食べ物を楽しむこともできます。



### <ホームステイ>

ホームステイ先には12歳の女の子と16歳の男の子がいました。特に女の子とは一緒にショッピングに行ったりたくさん話をしたりしました。トランプのババ抜きや神経衰弱などを教えると楽しんでくれたので良かったです。また、ご飯を食べる時はテレビも見ず、会話もなかったのが不思議でした。それがオーストラリアの習慣なのか、ホームステイ先だけなのかはわかりませんでした。

### <失敗談>

オーストラリアのバスは次のバス停を知らせてくれません。ある日、バスに乗って家に帰っている時に、ホストマザーからメールが届きました。そのメールに返信をする事に必死になっていたら、バスの外を見渡した時に全く見覚えのない場所で、後から10駅位降り過ぎていた事がわかりました。私はペアの子と急いでバスを降り、ホストマザーに連絡をしました。外は真っ暗で風が吹いて寒かったので身体が冷えていましたが、ホストマザーが迎えに来てくれた時に謝ると大丈夫と言ってくれたことで、私の心は温まりました(笑)これからは気を付けようと、反省した日でした。

もしも私がこの夏海外研修に行かなかったら、いま私の過ごしている時間は少しだけ味気ないものになっていたと思います。それほどオーストラリアでの二週間は刺激的で、私にとって忘れられない日々になったのです。

初めてホストファミリーにあった日、私たちペアは不安でいっぱいでした。初めての家庭で心配なのに加え、日本にいるときからメールでやり取りしていた家族ではなく、ほかの家族にお世話になることになったからです。私がやり取りしていたのは小さな子供のいる家族でしたが、実際にステイさせてもらったのは私の祖父母くらいの年の夫婦、そして猫のいる家庭でした。

おじいちゃんのポール、おばあちゃんのジャスミン、猫のルーピー。(英語でルーピーはクルクルパーという意味だそうです)

はじめ、猫のルーピーは私たちを怖がって姿を現してくれませんでした。そのため、自分たちの部屋に戻ってポールとジャスミンが何者かに愛しげに話す声をきいて、やばいところにきてしまったと思いました。(幽霊が見えているのだと本気で思い込んでいました。)

不安だらけで始まったステイでしたが、ポールとジャスミンは私たちを本当の孫のようにかわいがり、たくさん甘やかしてくれました。物事をはっきり言わないと注意されることもありましたが、そのおかげで変に気を遣うことなく生活できました。ポールのひくピアノと、元シェフのジャスミンの作る料理は最高でした。この家族との触れ合いが、遠くにいる私を温かい気持ちにさせてくれます。



また、バトラーカレッジであったリアンちゃんとのメールのやりとりも、私にとって大切なものです。お互い初めての異国の友人ということもあり、言葉のやり取りが難しい時もありますが、毎日のようにやりとりして、お互いの国の違いを楽しんでいます。リアルタイムなので、瞬時に内容を理解して返事を打たなければならず、新しい単語を知ることでもできて、勉強にとっても役立っています。また、もっと話したい、もっと伝えたい！という思いが、英語を勉強するモチベーションにもなりました。

この夏、ここに書ききれないほどたくさんの経験をしました。そのため、日本で何かピンチに陥っても「まあなんとかなるか、だってここは日本だし！」と前向きに考えられるようになりました。英語で話す機会が増え、今まで進路に有利だからという理由で勉強していた英語に、初めて明確な理由ができました。海外研修に行かなければ、こんなことはありえませんでした。これからは、もっと英語を勉強して、またオーストラリアに行きたいです。そしていつか、今のこの気持ちを流暢な英語であちらの人に伝えられたらいいなと思います。

オーストラリアで2週間過ごしてから、考え方に1番変化がありました。

遠い存在であった海外に行ったことで、自分でも大きなことができるのだと思うようになりました。前より、勇気のいることも、行動しようという気持ちが強くなったと思います。また、当たり前だと思っていた日本での生活の仕方、考え方、景色は日本だけのもので、本当は世界のいろいろな文化に日本の文化がまじってあることに気づきました。これまでは海外に関する番組を見ても、無意識に日本を中心として比べて見ていましたが、実際に日本を出て違う国に行ったことで、今暮らす日本と他の国を同じように見るようになりました。将来はまた外国に行って学びたいと思います。



#### <英語について>

始めは周りの人が英語を使って会話している様子が不自然でした。でも過ごしていくうちに普段話す言葉として聞けるようになり、同時に聞き取れる言葉も増えてきました。相手に伝わったときは嬉しく、最後は国の形をかいたカードを作ってホストファミリーとゲームができたときは楽しくて印象に残っています。

“see ya”や、“terrible”という表現は便利でした。



#### <西オーストラリア>

西オーストラリアは人が少なく自然が豊かで、時間がゆったりとしていました。そこが魅力だと思います。暮らしている人たちは明るく親切で、毎日生活を楽しんでいるように見えました。私も時間だけに迫られずできるだけ楽しんで暮らしたいと思いました。



【語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったこと】

→伝えたいという気持ち

今まで英語の授業の時に英語でテーマについて話すことはしていました。ですが、相手も日本人なので無理に伝えようとしなくても伝わってしまうことはありました。オーストラリアでは毎日一緒に生活してコミュニケーションを取る相手は日本語がわかりません。ただ単語を並べただけでは伝わらないことも多くありました。日本では伝わらないときに諦めて日本語で話してしまう時もありましたが、オーストラリアではジェスチャーを使ってどうにか伝えようとすることができました。知っている単語を考えてどうにか伝えようとした分、伝わった時の喜びは大きかったです。

【私が見つけた西オーストラリアの魅力】

●多民族・多文化

オーストラリアでバスに乗ると、アフリカ系、アジア系、ヨーロッパ系と様々な国の人で溢れています。店の店員さんも学校の先生も様々な国の人たちでした。お互いの文化を理解しながらの暮らしはとても魅力的だと思いました。

●街がとてもきれい

週末や放課後に遊びに行った街はどこもとてもきれいでした。



バスから見た川



広場の噴水



賑やかな中心地

【ホームステイでの暮らし】

私がホームステイした家はベビーシッターをしている女性の一人暮らしでした。とても優しい方で、どの食事とてもおいしかったです。観光に連れて行ってくださったりもしました。また、「いただきます」や「ごちそうさまでした」などの日本の文化を伝えることもできました。



朝食と昼食を合わせた  
“ブランチ”

朝、昼が軽い分  
夜はボリューム満天



★Change of my way of thinking

I thought Japan and Australia are similar until going Australia, but these values are very different. For example, Australians eat apples without washing them. It made me surprised. "Common knowledge doesn't exist in the different country." I have come to think that after I took part in this program.

☆About my host family

My host father is a funny man. He always tells a joke to make us smile. My host mother is a charming woman. I like her nice smile. There were three Chinese girls in my host family's home. They are 18, 21, 22 years old, and they can speak English very fluently. It's kind of them to take me to school every day. They were always very kind, and like a sister for me.

☆funny memories

When I went shopping, I used English many times. A clerk asked me "Hi! How are you today?" It is like "irassyaimase" in Japan. It was new to me. I found a good skirt, so I tried it on. A clerk asked me "How was it?" I answered "Good!" If Japanese don't like an item, we can't say "No," because Japanese have a very discreet personality. In this way, I felt a difference between Japanese cultures and Australian cultures. Last holiday, I wanted to write letters to my host family, so I went to a variety shop to buy cards. The shop had a sale, so I decided to buy them soon. After paying, I saw my receipt, and found a funny thing. I bought a two dollars card, but the receipt said it was five dollars. I was glad to communicate with people in my English, but many coins came back to me.



～私の海外研修に行く前と行った後で内面的に変わったこと～

内面的に変わったことは、自分から積極的に英語で話せるようになったことです。どう伝えたら良いか表現が難しかった時も自分の知っている単語を並べてどうにか伝えようと頑張りました。そうすると現地の人もホストファミリーの人も何が言いたいのかわかってきて、自分の意思を伝えることができました。初めは英語で話すことに「伝わるのかな。」と心配だったけれど、オーストラリアでの生活に慣れたころは心配の気持ちはなく「頑張って伝えよう。」という気持ちに変わっていました。だから、週末に出かけて道がわからなくなった時も「Excuse me.」と自信を持ち誰にでも声をかけることができました。

～ホームステイ～ (Robert & Andrea)

今回のホームステイでは Robert と Andrea、中国人のリン、ドレミ、エイミ、と私と河島さんの7人で生活をしました。最初の夜ご飯の時にたくさんの質問をされ、まだ英語に慣れていなかったからゆっくりでしたがホストファミリーと楽しい時間を過ごすことができました。キッチンやみんなが集まる場所は自分たちの国の言葉はしゃべってはいけないというルールがあり英語だけで話していました。毎回、ご飯はとてもおいしく誕生日には中国の方からお寿司をプレゼントでもらいました。



お寿司



dinner!

～西オーストラリアのおすすめ～

・パースシティ…いろいろなお店があって服やお菓子、お土産が買える！！安いお店もいっぱいあって欲しいものが買えました。

・フリーマントル…フィッシュアンドチップスのおいしいお店がある！他にもお土産屋さんやお店があり、街並みがきれいでした。

～感想～

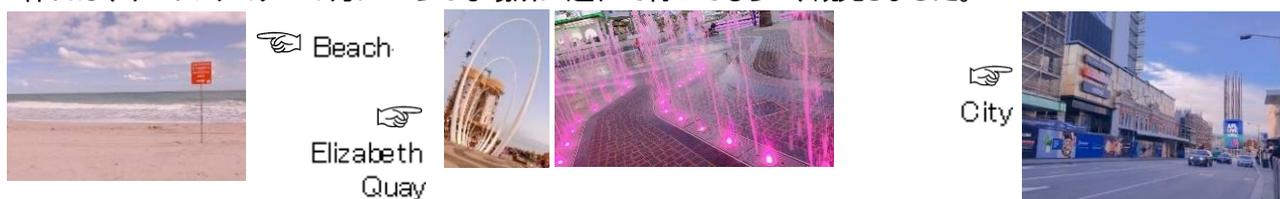
今回の語学研修では、自分の意見を英語で言うことが難しかったけど現地の人がみんな優しくしたのでしっかり伝えることができました。ホストファミリーも私ができるようにゆっくり話してくれたり、表現を簡単なものにしてくれたりと工夫してくれたのでたくさんの会話ができました。ホストファミリーと中国の方と夜に海に行ったり、チュロスを食べに行ったり、夜ご飯の片づけを子供たちでやったりとたくさんの交流を通して良い思い出ができました。また海外に行きたいのでその時は今回以上に英語が話せるようにしたいと思いました。

★What has changed internally before and after going to language training

研修に行く前は、自分から行動を起こすことはあまりなく、周りの人に聞かれるまで待っているなど、消極的でした。ですがオーストラリアでは、言葉が通じない以上、自ら行動し、また、おどおどせず意見もはっきり言わないと気持ちが通じません。そのため、最初は不安もありましたが、過ごしているうちに環境にも慣れ、自ら積極的に動こうという意思も強くなっていきました。また、物事を広い視野で多角的に見ることの大切さも学ぶことができたと思います。

★Beautiful views in Perth

休日は、ホストファミリーの方にいろんな場所に連れて行ってもらい、観光しました。



大学内にはワゴンがあり、休憩時間にカップケーキを買って食べたり、朝早めに登校して飲み物を買って温まったりしていました。また、放課後に寄り道をしてハンバーガーを食べたりもしました。とても大きくて、どうやって食べようかすごく悩みました。

★Food



★Happening

① バス乗り間違え事件×2回

1回目▶▶研修3日目の大雨だった日に、CELT から帰るとき家と逆方面に乗ってしまいました

2回目▶▶研修4日目、UWA から帰るときまた家と逆方面に乗ってしまいました

② タピオカなしミルクティー事件

休日に市の中心部に出かけたとき、タピオカの専門店で購入の仕方を勘違いし、タピオカなしのミルクティーを買ってしまいました。

★My host family

私のホストマザー、Tiffany さんはとても親切な方で、毎晩豪華だけどちょうどよい量のディナーを用意してくださり、食後には私たちの家族や学校、日本の気候、文化などのことを聞いてくださったり、逆に Tiffany さんのご家族やオーストラリアの気候、文化などについて話して下さいました。言葉が通じるということはこんなにも楽しいんだと改めて思ったひと時でした。



・語学研修に行く前と行った後で内面的に変わったこと

行く前は英語で話すことに抵抗がありました。でも、オーストラリアでは話さないと何も伝わらないし自分の意志は伝えないとダメだという考えなのでちゃんとした文章でなくても単語をつなげて頑張って伝えようとしたら段々と英語を喋ることに抵抗がなくなりました。むしろ現地の人たちに話しかけるのが楽しいとさえ思いました。最初は「外国なんて行きたくない」と思っていたが行ってみると楽しくてまた行きたいと思えるものでした。

・私のおすすめオーストラリア

オーストラリアにはたくさんの魅力的なものを見つけました！その中でも特におすすめのものを紹介したいと思います。

～ミートパイ～

オーストラリアで有名なミートパイ。シンプルなものもあればマッシュルームやステーキがはいってるものもありたくさんの種類がありました。私はマッシュルームのミートパイを食べましたがとてもおいしかったです。オーストラリアに行ったときは食べてほしいです。

～aqwa～

休日にホストファミリーに「aqwa」という水族館に連れて行ってもらいました。日本にはいない魚が展示されていたり近くにショッピングセンターがあり楽しいです。aqwaには海中トンネルがあり大きな海中トンネルがありました。



・私が学んだ英語表現

Oops おっと

May I? お下げしましょうか

Yummy おいしい

Not In Service 回送中

Arcade ゲームセンター

・感想

初めて海外に行って最初は楽しみよりも英語が通じるかどうかちゃんと会話できるかなどの不安の方が大きかったです。初日に英語で説明されたときはあまり聞き取れなくてこれから不安だと思っていたけれど現地の人たちは私にも聞き取りやすいように話してくれたおかげで会話することができました。最終日にはだいぶ聞き取れるようになっていて初日には聞き取れなかった現地の人話も分かるようになっていて感動しました。また海外に行きたいと思えたのでその時はもっと英語が話せるようにしたいです。

私はこの文化・語学研修へ行ったことで、いろいろなことに挑戦してみようという気持ちが生まれました。研修2日目の7月24日、私達は初めてホストファミリーと出会いました。せっかくオーストラリアまで文化・語学を学びに来ているのだから自分から話しかけなければとは思っていたのですが、間違ふこと、伝わらないことを恐れてしまって自分から話しかけることができず、相手の話に返答するので精一杯、という状態でした。これではいけないと思い、まず翌日から研修場所の CELT(ケルト)やホストファミリーの家で相手の話きちんと反応することを目標として過ごし始めました。すると研修4日目の7月26日、授業を担当している大学の先生から、こんなことを言われました。



「あかりの反応はいつも良くて、嬉しいわ。」

小さなことですが、自分のやっていることが認められたようでとても嬉しかったです。この日から私は目標を、自分から発言をするに変えました。不思議なことにこの日を境に、大学の先生からの問いに答えることはもちろん、意見を発言できるようになり、またホストファミリーにも、その日あった出来事、明日の予定についてなど自ら話せるようになりました。私は自分で目標を立て挑戦したこと、またそれを認めてもらえたことで変わることができ、挑戦しよう、したいという気持ちが生まれました。この先生にはとても感謝しています。



わたしのホストファミリーは、サマンサ・ジェyson・ダーシー・ジュエル・ウィローの5人家族でした。ホストファミリーとの思い出はたくさんありますが、特に3つのことが印象に残っています。

1つ目はスワン河で食べた夕食です。私がオーストラリアを訪れたときは冬だったので、夜はストーブが必要なほど寒く、夕食を食べているときは手がかじかんで、吐く息は白かったです。そんな中クイズをしたり、日本の家族について話したりと、とても楽しい時間を過ごしました。2つ目はお父さんのジェysonと長男のダーシーと行った海です。そこでジェysonはたくさん話をしてくれました。オーストラリアの歴史、文化、オーストラリア人にとっての海について、また日本への考えなどを真剣に伝えてくれたことはとても印象に残っています。

3つ目はお別れのときです。ホストファミリーと別れるのがさびしく、家にいる時から泣き始めてしまい、最後学校に向かう車の中で明るくふるまいつつも泣いているホストファミリーの姿を見て涙が止まらなくなりました。お礼の手紙も喜んでもらえ、最後の最後は皆でハグをしました。たった2週間でしたが一緒に過ごした時間は私の宝物です。

- What was changed internally before going to language training and after going.

My most changed thing is listening and taking communication. Before I visit Australia, I thought “try talking with many people”. But it was difficult for me to talk with many people. I was very nervous. So on the first day I didn’t speak much English. A few days later I spoke little English. When I tried speak English, my host family tried to understand me. On the one hand, I didn’t understand what they were saying. I looked up a word or a sentence soon. And I understood that they used easy English for us.

- English expression I learned

In the classroom, I took a lesson. I learned something. These are examples.

- J’ava’goodweegen? – Did you have a good weekend?
- G’day – Hello                      · mate – friend                      · see ya - goodbye
- fair dinkum – honestly/really
- loo – toilet                      · snags – sausages                      · cops – police
- yukky – taste terrible                      · yummy – tastes delicious
- yep/yeah – yes                      · j’wanna? – Do you want to?

And they often said “terrible”. This is used in a light meaning. Other than that is “little be?” “Uh huh” and so on.

- About home stay

My host family took me somewhere. The beach, aqua, shopping center and so on. There is a picture



under sentence is the beautiful beach. There was a person who is surfing though it is winter! I thought it’s too cold!! But they looked fun. If I go to Australia, I want to visit in summer. This picture was taken in aqua.

This is a shark! I could see it very close. This aqua has many kinds of fish. For example, jellyfish, rays, small fish and so on. I enjoyed only watching it. Underwater Tunnel was very interesting. I felt like I was in the sea. I want to visit it again. In the house, I

played the piano. I was grad to hear them saying “beautiful sounds”. I really enjoyed my homestay because they were very kind.



・語学研修に行く前といった後で内面的に一番変わったこと

もともと私はそんなに知らない人と交流するのが苦手だけど、オーストラリアに行って現地の人とたくさん交流する機会がありました。それで現地にいる人と挨拶をしたり道を聞いたりして自分から交流しました。それを通して私は人と交流することが好きになったことが一番変わったことです。

・私のおススメ、西オーストラリア

1、スワン川

西オーストラリアで一番大きいといってもいいスワン川。町の中心をとおっていて水が本当にきれいです。時期によってイルカが来るのだとか。

2、ジョンフォレスト国立公園

ここは、自然公園でオーストラリアならではの動物に会うことができます。

実際に見て撮った写真➡



・ホームステイについて

ホストファミリーはとても優しくいい人たちでした。一緒にケーキを作ったり、ビーチに行ったり、オーストラリアンフットボールを見たりといろいろな体験をさしてくれました。緊張していたけどそれはすぐ吹っ飛んでいきオーストラリアの生活を楽しみました。ホームステイすることで現地のことをもっと知れたし生活の違いについても自分で感じられたのでいい経験になりました。



➡ホームステイさせていただいた家

・その他

毎日大学に行くのに使っていたバスですが、日本と違って運転手さんは次がどこだとか言ってくれないので本当に降りる場所が分からなくて大変でした。迷子になることがあったけどオーストラリアの人は優しく困っていたら助けてくれました。だんだんとさきに英語が出てきたことは自分でも驚きました。なかなか経験することができないことができたので良かったです。

### ☺ 語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったこと

私は、語学研修に行く前から英語をしゃべったり、英語で表現したりすることが大好きでした。しかし、今回の語学研修を通してもっと英語を深く学びたいと思いました。自分の単語力だけじゃ伝わらないこともいっぱいあるし、もっともっと自分の力だけで正確に気持ちを伝えられるようになりたいと思いました。また、英語だけでなくその他の外国語についても知りたいと思いました。オーストラリアには中国人やインド人など、たくさんの国の人がいました。だから、英語だけでなく、ほかの国の言語も喋れたらもっと楽しいだろうなと思いました。そして、これからは外国語に対して抵抗を持たず、もっと自分の可能性を広げられるよう積極的に外国語にトライしていきたいと思います。

### ☺ 私が見つけた西オーストラリアの魅力

私は去年ホームステイの受け入れをして友達になった James と Casey に Perth を案内してもらいました。Perth のたい焼きは日本とオーストラリアの融合のような感じで、とてもかわいくて美味しかったです。また、動物園に行って、初めてあんなに近くでコアラやカンガルーを見て、その近さに驚きました。また、別の日にはサイクリングをしました。オーストラリアは日本に比べて自転車に乗る人が多い印象でした。だからサイクリングコースなどもしっかりあって、とても楽しかったです。



### ☺ ホームステイについて



私たちは Marilyn というホストマザーにお世話になりました。Marilyn はホームステイの1日目、家に着く前に Swan River に連れて行ってくれました。とてもきれいな場所で、Marilyn がそこに連れて行ってくれたおかげで、とても話しやすい雰囲気になりました。また、毎日おいしいご飯を作ってくれて、とてもおいしかったです。だから、Marilyn にお礼ということで、私たちも“親子丼”を作り、お箸もセットでプレゼントしました。とても喜んでくれてうれしかったです。最終日には、Kings Park から Perth の夜景も見せてくれて、とてもきれいでした。

## ・ホームステイと日常・

英語で話すことも、文化や生活を知るのも1番ホームステイ先が多かったです。最初、ホストファミリーに会うのがとても緊張していました。しかしそんな不安は必要ありませんでした。優しく、聞き取れなくても何回も言い直してくれたり、伝えてくれました。何か困ったことがあると、助けてくれ、一緒に考えてくれました。そして初めて CELT に行く日、お父さんが車で送ってくれました。そして、疑問になったことを教えてくれました。例えば、朝見ているニュースです。日本では、中継でもニュースキャスターが行いますが、オーストラリアでは住民が話します。ほかにも、登校時間に道路を渡れるようにするのを男の人がしていました。女の人がすると思っていたので驚きました。気になった質問を、工夫して言い方を変えたりして伝えました。わかってもらえた時はとてもうれしかったです。帰りも CELT まで迎えに来てくれて、翌日学校に行くための道を何度も何度も教えてくれました。しかし、結局ボタンを押しても思っていたバス停で止まらず少し距離を歩いて学校に行きました。

そして、週末はたくさんのことをしました。海に行ったり、オーストラリアのスポーツを観たり、体験したり、クッキングをしたり、とても濃く充実した日々を過ごせました。地元のスポーツクラブでは、保護者の方々が大きく関わっていました。チームの得点表を書いたり、使う必要のある荷物を持って来たり、たくさん貢献していました。次女は、オーストラリアンフットボール(AFL)をしていました。そして、週末に蹴り方、仕方、ルールなどを教えてもらいました。最初はうまくできませんでしたが、できるようになるととても楽しかったです



AFLの様子

そして、私が驚いたのはベジマイロールというお菓子です。家族みんなで作りました。そもそも VEGEMITE とはパンに塗るジャムのようなものです。ホストマザーには、外国人が納豆食するときの味と聞きました。私も挑戦しましたが、塩分が強くあまり好きではなかったです。しかし、ベジマイロールはとてもおいしくて、衝撃を受けました。これはパイ生地に VEGEMITE を塗りチーズをのせて焼いたものです。最初は VEGEMITE が入っていたため食べるのに躊躇しましたが1つ食べると手が止まりませんでした。



ベジマイロール

## ・オーストラリアで変わったこと・

自分が1番変わったと思うことは「自分で考えられるようになった」ことです。前は、少し道を間違えたり、電車やバスを間違えてしまったりしたら戸惑い続けていました。しかし、今回自分たちで知らない土地に行って考えているうちに余裕が出てきました。海外では、変わることがよくあります。実際、学校でも予定されていた教室が違うところになりました。しかし、ほかの大学生にその場所を聞くなど、落ち着いて臨機応変に動くことができました。電車も着くのかわからなかったら乗りそうな人に聞けるようになりました。当初の自分では考えられなかったことです。そして、自分が生まれ育った土地以外で、違う言語で、話せていることがとても楽しくわくわくしました。しっかり文法を守って話せることも大切で、目標ですが、今はそれよりも伝えることが大切だと思うようになりました。また海外に行って、たくさんの人達と交流をしたいと思います。

**\* 語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったこと**

私が内面的に一番変わったことは、自立性です。ホームステイ先では自分でしなければいけないことがたくさんありました。例えば、毎日自分が使った食器を洗い、公共交通機関の時刻を調べて考えて行動し、昼食を用意しました。そうしているうちに今までどんなに家族に任せていたかよく分かりました。自分のことは全部自分でやり、家のことも自分から協力すべきだと強く思うようになりました。ですので、これから自分から家事をして自分のすべきことは責任をもってしようと思います。いつも頼っている人がいないことで自分がすべきことを知り、今までの自分に向き合うことができました。この研修で私は成長することができ、大きな経験になったと思います。ですので、今まで家事をしてくれて私を支えてくれた家族に感謝し、このホームステイに参加させてくれたことにとても感謝しています。

**\* 私が見つけた西オーストラリアの魅力**

魅力はたくさんありますが、まず一番に思い浮かぶのは驚くほど豊かな自然です。スワン川は海と間違えるくらい大きくてとてもきれいでした。川にはボートが浮かんでいて、波際はビーチのようでした。また、住宅街や大学内には大きな木がたくさん生い茂り、Wildlife Parkは本当の森の中にいるみたいでした。次に思い浮かんだのはショッピングモールと親切な人の多さです。私は土日にフリーマントルやマーケット、ショッピングモールなど様々なところに行きました。どのショッピングモールも多くの種類の店舗があり、すべてを見て回るのはいへんなぐらいでした。服は日本円で400円ぐらいの安い服も売っており、お土産屋さんもたくさんあり、何時間でも居られました。私は行く前財布を盗まれたりすると聞いていたので少し物騒なところだと思っていました。しかし、財布を盗まれるどころか私が落とした携帯を手渡してくれる人までいました。バスに乗り降りする時はみんな「こんにちは」や「ありがとう」などの挨拶を欠かせません。また、お店を見ていると話しかけてくれたり、かごを持ってきてくれたりする親切な店員さんばかりでした。西オーストラリアは自然や観光地だけでなく、人までにも魅力が詰まっていました。

**\* ホームステイについて**

私はホームステイをしたことが無く、とても不安でした。しかし、ホストファミリーはとても優しく、分からないことを聞くと丁寧に答えてくれて安心できました。一緒にトランプをしたり、マジックを見せてくれたり、話したりしてとても楽しい生活で本当の家族みたいに接してくれました。しかし、いつもの生活と違うことも多く、とまどいもありました。シャワーは4分しか使えない、野菜はあまり食べない、昼食にりんごを丸ごと持っていき、暖房をつけない、お皿を洗った後の泡は落とさないなど挙げていくときりがなくらいでした。正直しんどい部分もあり、私が今までいかに贅沢な暮らしをしていたかを思い知りました。しかし、その生活にもすぐ慣れることができ、後半にはこの4分間のシャワーを浴びることもなくなるのかと少し寂しい気持ちになりました。このホームステイでそれぞれの国や家庭でそれぞれの生活があることを改めて知り、今の何不自由ない生活に感謝すべきだと思いました。この生活は私にとってとても良い経験になりました。

## 私の異文化体験

1年次 女子生徒

あなたは、外国に行ったことがあるだろうか？

外国では、言語や思考、生活スタイルなど様々なことが異なっている。初めて外国に行くひとは、そんな変化に誰しも戸惑うだろう。

私は内気で、人見知りだった。そんな私が、外国人相手となればもっとコミュニケーションが取れるわけもない。そこで、しゃべランチに行ってALTの先生達と英語で話す特訓をした。それで随分外国人と話すのに慣れたと思う。しかし、実際オーストラリアに行ってみると、環境の変化のせいも、ほとんど英語で喋れなかった。そして、初めの3日ぐらいは1日合計10分位しか英語で会話できなかった。それをどうにかしようと悩んでいるとき、「オーストラリア人は言わないと伝わらない」ということを知り、オーストラリアの大学の先生が、完璧な英語で話さなくていい、と(英語で)言ってくれた。その言葉で私は勇気が出て、徐々に積極的に英語で話せるようになった。

日本に帰ってきてからも、「日本人も言わないと伝わらないことがある。」という考えを持つようになり、積極的に話せるようになった。

西オーストラリアのおすすめスポットはたくさんあるのですが、私の行った中で特におすすめは、「ワイルドドライブパーク」だ。理由は、そこには日本では見られない動物がたくさんいるからだ。そこでは、様々な動物と触れ合うこともできる。



私は、ラム肉料理を注文しようと、「ラム」と発音すると全然伝わらなくて、15秒位経ってから理解してくれた。というのは、「ラム」と発音するのは、ラム酒の「rum」で、ラム肉は「lamb」で「レム」と発音するからだ。オーストラリアに行って、様々な困難があったが、諦めずに頑張り続け、とてもたくさんの良い刺激を受け、言語だけでなく、人としても大きく成長できると思う。私は、この海外研修に参加できて、本当に良かったと思う。

## ☆語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったこと

私が語学研修に行く前と後でいちばん変わったことは、何でもとりあえずやってみようと思えるようになったことです。海外研修に行く前までは、何かに挑戦しようとしても、いろいろな不安が出てきて、どうしようかと優柔不断になってしまうことが多かったです。実際、海外研修に行く前も、行くと決定するまでとても悩みました。でも、行ってみて、英語が得意じゃなくても、日本と違う文化の国に行っても、何とかなるということがよく分かりました。英語ができない分、ジェスチャーと簡単な単語で伝わるように工夫すればいいし、日本と違う文化は、それはそれで受け入れて楽しめばいいし、今まで悩んでいたのがばかしくなりました。何においてもやってみないと、それがうまくいか、失敗するかは、わからないので、何でもやってみようと思えるようになりました。



## ☆オーストラリアのいいところ

私が思うオーストラリアのいいところは、人がみんな優しいところです。道に迷って、歩いている人に聞いたら、いやな顔をせず、親切に教えてくれるし、大学の中でインタビューをしたときも、忙しそうにしているにもかかわらず、立ち止まってきちんと答えてくれて、うれしかったです。また、オーストラリアにいるときに、スマートライダー(PiTaPa や ICOCA のようなもの)を落としてしまったのですが、ホストファミリーがどうしたらいいかを教えてくれて、教えてもらった場所に行ったら、その店員さんが、英語がわからない私を見て、代わりに書類に記入してくれて、わかるように説明してくれたおかげで、再発行することができました。たくさんの人の親切に支えられて、海外研修を良い思い出として終えることができ、ほんとうによかったです。

## ☆ホームステイについて

私を受け入れてくれたホストファミリーは、おじいちゃんとおばあちゃんの2人暮らしでした。オーストラリアに行く前までは、「どんな人だろう。優しい人なのかな。」と、とても不安でした。でも、その不安はすぐになくなりました。ふたりとも、とてもやさしく、親切で、毎日一緒にテレビを見たり、おしゃべりしたり、週末に一緒に買い物やビーチ行ったりと、今までの中で一番充実した2週間になりました。また、ホストファミリーの家と日本の自分の家とでは違いがたくさんあって、驚きました。特に、家の大きさや、生活リズムの違いに驚きました。ホストファミリーの家は、自分の家の2倍ぐらいあって、貸してくれた部屋も、ダブルベッドが置いてあっても余裕があるぐらい広かったです。また、生活リズムは、とても規則正しく、10時までには寝て、朝は6時に起きる、夜ご飯は毎日7時と、日本で崩れがちだった生活リズムが正され、健康な生活を送ることができ、より充実した日々を過ごすことができました。

### <語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったこと>

もともと少し人見知りなのだが、以前よりも積極的に話しかけるようになったことだ。例えば地図を見ても道がわからなかったとき「Excuse me」と知らない人に話しかけることができた。そしてホストマザーやホストファザーと話すときいつも話しかけてもらってばかりだったが、最後のほうには自分から話題を見つけて話すことができたようになった。John Forrest や Butler でも自分から話しかけに行くことができ、そのおかげで仲良くなることができた。

### <西オーストラリアの魅力>

#### その1 周りの人が優しいこと!

日本人も親切だといわれているが西オーストラリアの人のほうが親切かもしれないと感じた。ある日バス停でペアの子とバスを待っていると知らないおばあさんが「どのバスに乗るの?」と声をかけてくださった。まったく関わりのなかった人が私たちのことを気にしてくれていたのがうれしかった。また、初めてバスに乗って帰る日不安だったので「ここでおりたいのですが、あとどれくらいですか」とバスの乗客に聞くと「私もそこに行くから一緒に行こう」と言ってくださり本当に助かった。ホストファミリーも私達が理解できるようにゆっくり話してくれたり、分からなかったら簡単な単語で話してくれたりと本当に優しい人たちで、少ししか一緒にいることのできなかつたお孫さんもフレンドリーだったのですぐに仲良くなれた。店員さんも親切だった。



#### その2 美しい街と自然



ホームステイ先の家はスワンリバーのすぐ近くだった。スワンリバーは美しく大きな川で、通っていた大学からも近かった。休日の朝はペアの子がランニングしに行くときにジョギングしたりウォーキングをしたりしていたが、海のように透きとおっていてきれいだった。パースの街に行くときと素敵な建物が多く、ごみ一つ落ちていなかった。一週間目の休日は二日もここに行ったがたくさんのショップがあり飽きることはなかった。ロッキングハムのビーチにも行った。青い海と白い砂がとてもきれいで、是非夏にもう一度来たい場所だ。

### <感動したこと>

バトラーカレッジに行ったときに「スカートの長さが短くてうらやましい」と感じたとき、ホストマザーに伝えると、「確かにこっちの人のスカートはあなたたちに比べて短いけど、それぞれの文化があって、それぞれ良さがあると思うよ。違いを大切にしていきたい。」と言われたことに感動した。最初はスカートの文の話だったのだがほかのことにも言えることだと感じた。そして、ホストファミリーの家では常にラジオがかかっているのだが、その中には日本で私が聞いていた曲や好きな曲が何曲もあった。そのことでホストマザーとたくさん話をすることができた。そしてホストマザーは「音楽は世界共通語だね」と言っていたのを聞いて確かにそうかもしれないと感じた。遠く離れた国の人でも自分と同じ音楽を聞いて楽しんでいると思うと、音楽って良いなと感じた。

## 私の異文化体験

1年次 女子生徒



### C・語学研修に行く前と行った後で内面的に変わったこと

私はパースに行き行って積極的になりました。パースでは分からないことだらけで、毎日新しい発見があり、自分から学ぼう、身につけようとする姿勢が大事でした。授業やホストマザーの家でも、黙っているのではなく間違っている英語かもしれないけど自分から話しかけることができました。日常で使う英語はユメ単などで知っているものが多かったのも、もっと使うことを意識して勉強し、スラスラ話せるようになりたいと強く思うようになりました。



### C・私が見つけた Perth の魅力

可愛いオブジェが沢山あり、町全体がオシャレです！

カンガルーが水を飲んでいるものや、壁に素敵な絵が描いてあったりしました。

スワンリバーから見た夕焼け・キングスパークから見た夜景がとても綺麗です！！



### C・ハプニング

一番のハプニングはスマートライダーというバスのカードを失くしたことです。

携帯と一緒にいれていたの携帯を取り出した時に落としてしまいました。その時はあと30ドル残っていたし、再発行の手続きも大変でした。ほかの日本人やホストマザーに助けってもらったり、自分からバスステーションや学校の人に申請に行ったりいい経験になりました。

Perth は思っていたより鳥が多くてビックリしました🐦！！

ホストマザーの家にドライヤーがなくジャンパーを着て眠り風邪をひきそうでした。

バスを乗り間違えてしまうこともありました。その時、運転手さんに聞き、本当に乗らないといけなかったバスがあるところまで連れて行ってくれました。周りも暗くなってきてとても心細かったですが、優しい運転手さんに教えてもらえてよかったです。

### C・ホームステイについて

私たちのホストマザーはとてもフレンドリーで海外旅行が趣味の人でとても楽しかったです。毎日今日したこと、明日することをお話しました。息子さんや孫を呼んでくれて一緒に夜ご飯を食べたりしました。右の写真は親子丼を一緒に作った時です。足りない材料もあり完全再現ではなかったが気に入ってくれました♡時には厳しく指導してくれて私たちのことをよく考えてくれる優しいマザーでした。次は再来年の春、日本で会います！🌸



C・9月にホームステイの受け入れをします。これから海外の人との交流を沢山したいです。

① 語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったこと

この語学研修に行く前、正直、自分の英語力がオーストラリアで通用するのか心配で、あまり前向きに語学研修のことを考えていませんでした。ですが、それは杞憂にすぎませんでした。実際、オーストラリアで色々な方と話してみると意外と通じたのです。そのような経験を通して、自分の英語力に自信をもてるようになったと考えています。それが今回の一番の成長だと考えています。今回の自信を忘れずに、これからの学校での英語学習にも前向きに取り組もうと思います。

② 私のおすすめ、西オーストラリア

オーストラリアのおすすめしたいところは、フリーマントルです。フリーマントルは、オーストラリア開拓時代に建てられたヨーロッパ風の建物が立ち並ぶ美しい港町。車や電車で気軽に足を延ばせる人気の日帰り観光地です。毎週賑わうフリーマントルマーケットや世界遺産に登録された旧フリーマントル刑務所など、見所も充実しています。それほど広くないので、のんびり街歩きが楽しめます。授業でも一回、行きましたが週末にも遊びに行きました。お土産も充実しているので、ぜひ立ち寄ってほしい観光地。



③ オーストラリアの語学について

オーストラリアにはアメリカなどとは少し違った語学文化が存在します。その中でも僕が興味を持ったものがオーストラリア特有のモノの呼び方です。下に例を挙げます。

普通の読み方	オーストラリアの読み方	日本語
Sausages	snags	ソーセージ
Goodbye	seeya	さようなら
Thanks	ta	ありがとう
Police	cops	警察
Yes	yep	はい

私にとって初めての海外。今回のオーストラリアでの研修でたくさんの刺激を受けました。特に、オーストラリアに行ってから英語の文法に自信がなくても、言葉にするようになりました。行くまでは、うまく文が作れないとき、話さなかったり、友達に確認してから話したり、ぱっと言葉にすることができませんでした。でも、現地へ行くと英語しか通じないから、何か言葉にしないと何もできないので、カタコトでも完璧じゃない文章でも、話してみました。そしたら、文法が完璧じゃなくても伝わったり、少し単語を言ってくれて「そうそう！」と話が通じたことにとても驚きました。単語やジェスチャーでも伝わるとは知っていたものの不安だったので、すごく嬉しかったです。ホストファミリーと会話するときも、分からないときは単語とジェスチャーで会話する時もありました。これから、もし外国人の方に話しかけられても、口ごもらずに話していきたいと思います。

私が思う西オーストラリアの魅力は、いろんな人種の人っていて、どの人も優しいところです。UWA で大学生の皆さんにインタビューさせていただいた時、ほとんどの人が快く受けてくれました。一番驚いたのは、バスの運転手さんが、私達がバスがわからなくてバス停で困っている時、わざわざ扉をもう一度開けてくれて、どこに行きたいのか聞いてくれたことです。そして何番のバスに乗ればいいのか教えてくれて、本当に嬉しかったです。オーストラリアの人の優しさに救われ、無事にその日はバスに乗れました。

私のホストファミリーは、家にいたのはホストファザー、ホストマザー、ホストブラザーの三人でした。ホストシスターは東オーストラリアに住んでいて、ホストファザーもホストシスターの所に行っていたので、ホストファザーとは三日間しか一緒に過ごせませんでした。ホストファミリーは中国人だったので、中国料理が多く、肉まんを作ってくれました。ホストブラザーも時々ご飯を作ってくれました。

ホストマザーはとても優しい人で、私達が英語が分からない時、何度も繰り返してくれたり、夕食のときも学校のことなどたくさん話せました。ホストファザーは私達の名前を中国語で教えてくれました。名前の漢字が中国語と同じ意味で驚きました。私達のホストファミリーは常に忙しく、休日も仕事と一緒に過ごす時間はほんの僅かでした。でも、その短い時間の中に色々な思い出ができました。



ホストマザーとホストブラザーは毎日喧嘩していて、お別れのときもホストマザーが道を間違えて、車の中で口喧嘩になって、心配で、感動して泣く暇もありませんでした、、、

でも、それはそれで少し笑えて、暗い別れにならなくて良かったです。16日間、ホストファミリーがこんなに優しくて、ある意味面白かったので、楽しく過ごすことができました。

彼らはとても素晴らしいファミリーでした。本当にありがとう！

私は、オーストラリアで様々な経験をしました。オーストラリアに行く前、私は英語しかない環境で本当に生活ができるか不安でした。その不安通り、現地では最初自分の話した言葉が全く伝わらず、聞き取ることも出来ませんでした。しかし、違う表現で試してみたり体を使って表現することで伝わり、相手も同じようにしてくれたので会話が繋がりました。英語にも日本語と同じで訛りがあることがわかりました。だから、日本で勉強した英語が伝わらない時もあります。こんなことをいうのもなんですが、勉強した中途半端な文法を使うよりも意味を理解した単語を並べて使うほうが伝わります。私が現地で感じたことは、知らない単語が多かったことです。そのせいで会話が中断されてしまいます。単語をもっと覚えるべきだったと思います。

本来の目的である語学の習得をすることよりも、私はどれだけ楽しくその場にいられるかを重視しました。勿論、語学があるからこそ楽しい会話ができるのだと思いますが、時間が限られていたので、それを優先しました。その結果、オーストラリアの生活を楽しむことを自分なりに出来たと思います。

## 現地でしたこと

実際に現地でしたことを教えたいと思います。授業を受けた大学では、班になってプレゼンテーションの題材を決め、情報を集めるために待ちの中でインタビューをしました。オーストラリアは多文化社会ということもあって、様々な結果をみることが出来ました。プレゼンテーションはもちろん英語で行いました。そして、現地校との交流では、一緒にゲームをしたり、オーストラリアンフットボールを体験したり、世界史の授業を受けてみたりしました。授業を受けている時は、英語が速く、分からない言葉も多かったので、あまり理解することが出来ませんでした。今まで相手が自分のために簡単な英語で話してくれていたことを実感しました。

生徒達は日本の文化にとっても興味を持ってきていて、「こんにちは」と挨拶してくれる人もいました。特に日本のアニメ文化が人気だと教えてくれました。みんなとても自由で楽しそうにしていました。

休日には、一緒に街で遊びました。他には、動物園に行きました。日本では見られないような動物がたくさんいたり、ヘビを触ってみたりして、とても貴重な体験をしました。フリーマンツルのマーケットにも行きました。中は、様々な種類の品物、演奏する人、たくさんの客で賑わっていました。日本とはまた違った雰囲気、楽しかったです。休日は、水族館に行ったり、お土産を買うために同じホームステイのコロンビア人やアイルランド人と一緒に行きました。

ホームステイでは、色々な国の人と過ごすことが出来てとても楽しかったです。短い時間の中でしたが、色々な出来事があって、充実した毎日でした。

## Excuse me

私がオーストラリアへ行って変わったことは、積極性です。オーストラリアへ行く前は、わからない事があるとすぐには聞けず、友達に、「聞いてよ」とお願いすることもありました。しかし、私の海外研修へ行きたい理由の一つに「積極性を養いたい」というものがあったので、現地でたくさんの人とコミュニケーションをとりました。ある日、買い物から帰ろうとしてバスを乗り間違えたことがありました。門限が迫り焦った私たちは、スマートフォンに頼るのではなく、運転手に直接聞くほうが良いこと気づき、「Excuse me…」と、合っているかわからない文で運転手さんに行先を聞いたというエピソードがありました。通じたときは、達成感と家に帰れるという安心感でいっぱいだったことを覚えています。その出来事があってから、現地の方々と話すことが不安から楽しいへと変わりました。「Excuse me」は私の積極性を養ってくれた魔法の言葉です。

## Enjoy holiday

パースでの私のおすすめスポットは、ロンドンコートとクレアモントクウォーターです。ロンドンコートはオシャレな商店街、クレアモントクウォーターはショッピングセンターみたいなところ。美味しいものや服、お土産屋さんもあるので、休日はほとんどそこへ行っていたと思います。現地のポテトが美味しかったので、ポテト巡りをしました。

現地ではポテトのことを「Chips」と言うそうです。





## 私の異文化体験

1年次 女子生徒

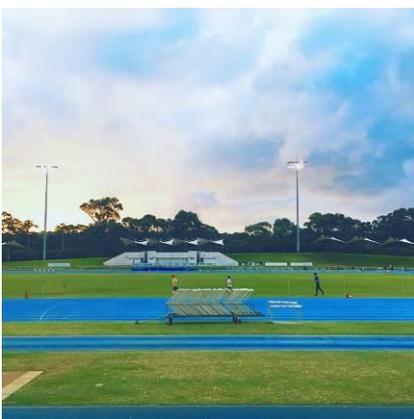
この研修に行く前は、自分から人に話しかける事が苦手でした。でも研修の中で、現地の大学生にインタビューしたり、ホストファミリーと話したりしたことで、人見知りの方が前よりましになりました。日本だったら話さなくても、ほかの人がやってくれたり、表情を読み取って事が進んだりしていたけ

ど、日本語が通じないオーストラリアでは、そんな甘い考えが通じないので、最初は恥ずかしかったけど自分からどんどん話しかける事を心がけました。そうしたらホストファミリーやCELTの先生に自分の性格をわかってもらえてたくさんコミュニケーションがとれました。今後クラス替えや進学、就職で新しい人とかわることが増えると思うので、自分から話しかけたいと思います。

私たちのホストファミリーは、マイケル、フィオナ、10歳のアンニャ、12歳のライリでした。フィオナが現地の小学校の日本語の先生だったり、家族で1年間北海道に住んでいたこともあり、少し日本語が通じたので、わからない英単語を日本語で説明してくれたり、娘ちゃんたちとひらがなのカルタをして遊びました。マイケルの作る料理はどれもおいしくて、毎回おかわりをしていました。



パースを流れるスワン川は、とても大きくまるで海みたいでした。水は透き通っていて、砂もきれいで私のお気に入りです。通っていたCELTから近いのでよく遊びに行っていました。オーストラリアは雨があまり降らず水不足なので、たくさんのオーストラリア人が水を大切にしていました。日本より環境を守ろうという意識が高いことを感じました。



自分から話しかける事の大切さを感じた出来事は、現地の陸上クラブに参加したことです。ホストファミリーに陸上部に入っている事を伝えると、陸上をしている知り合いがいるからそこに参加してみない？と言われました。

クラブ中はもちろん日本人は私一人なので、英語の説明を自分ひとりで理解しないとイケませんでした。大変だったけど、一緒に走ってくれた子に、コーチはなんて言ってるの？と自分から聞くことで理解することができました。

また、その子とたくさん話したのでとても仲良くなって、その日の夜ご飯はその子家で食べました。一人でクラブに参加することは不安のほうが大きかったけど、参加してよかったなと思いました。

オーストラリアで学び、感じたことは、今後の自分に必ず役立つと思います。

## 私の異文化体験

1年次 女子生徒

### I オーストラリアでやってしまった事 TOP3

#### 1位 ランチを家に忘れた事

その日は起きるのが遅かったし、荷物をまとめていなかった。二階で荷物を急いでまとめていたら一階からホストマザーに「早くしないと、電車に乗り遅れるよ。」と言われた。急いで玄関に出て、歩いていたらまたホストマザーが何か言っていたけど聞こえなかったから、「走れ」と言っているのかなと思って急いで駅に行った。そしたら、パース駅で自分がランチを忘れてきたことに気が付いた。後でホストマザーに言ったら「だから、言ったのに」と言われた。ホストマザーが言っていたのは、「走れ」ではなく「ランチ」と言っていたらしい。時間にゆとりを持って行動することは、大事だと感じた。ちなみに、その日のランチは優しい友達が分けてくれた。優しい友達がいってよかった。

#### 2位 朝から電車で乗り過ごした事

初めて自分たちだけで、学校に行くのに不安はなかった。むしろ、余裕だった。昨日ホストマザーと一緒に行ったし大丈夫だと思っていた。電車に乗ってこまめに駅をチェックしていた。だけど気が付いたら海が見えてきた。昨日、海は見えてないと思っていたら乗り過ごしていた。二人もいるのに、どちらも気が付かなかったことに驚いた。その後、急いで学校へ向かったが遅刻した。しっかり駅がどこなのか把握しとかなないと、乗り過ごすことが分かった。

#### 3位 最終日、学校からの帰り道で迷った事

最終日に卒業証書を受け取った後、ペアのYさんと家へ帰ろうと駅へ歩いていたら、知らない道に出た。道を聞く人もいなかったの、私が直感で「こっち」と言った方に行ったら、全く逆の方向だった。自分が方向おんちだった事も分かったし、なんとYさんも方向おんちだったことが分かった。二人とも、方向おんちだった場合、「ぼー」としながら、歩くのはよくない事に気づいた。慣れたところが一番、気をつけないといけないと思う。

### II オーストラリアで楽しかった事 TOP2

#### 1位 英語で会話出来た事

このプログラムの目的である話すこと。家族の話や、学校の話がホストマザーにたくさん話せた事は自分にとって、とても良い経験となった。日がたつにつれて、自分のリスニング力が上がっていくのを実感できて感動した。

#### 2位 John Forrest Secondary の数学の授業

はじめはちょっと、授業についていけるか不安だった。だが3桁×3桁の計算で出来るので、楽しかった。でも、筆算ではない計算方法だったので、知れて楽しかった。

### III 語学研修に行く前と行った後で内面的変わった事

オーストラリアへ行くことに不安はなかった。私はオーストラリアへ行くためにこの学校へ入学した。だから、とても楽しみだったし楽しかった。語学研修で一番変わったことは、積極的に行動できるようになった。このプログラムは、知らない人にインタビューしたりする機会が多い。それを利用してどんどん積極的に話すことが出来た。今では、自分の武器の一つになったと思う。また、伝わらない時にあきらめなくて伝える大切さを学んだ。あきら

めない、根気強い心も身についた。本当にこのプログラムに参加してよかった。最後に外面的に変わったことは、帰ってきて部活の先輩に「顔が丸くなったな」と言われた。ショックだった。食べすぎには気をつけなければならない。

Essay

2年次 男子生徒

語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったことは、英語への感じ方です。行く前は、シャベランチなどで英会話しても全然伸びなかったので、オーストラリアに行っても結局上達しないだろうなと思っていました。ですが、いざ行ってみるとほんの少し得られたなという実感がありました。英会話というひとつのことにしか意識していなかったのが、このように思ってしまったのかもしれませんが。得られたものはこれだけではありませんでした。オーストラリアの環境について知れたことであったり、交通機関の利用の仕方、マナー、他国の人との交流や友達などたくさんの刺激を得ることができました。

オーストラリアに行けてよかったです。



この語学研修で感動したことは

ほとんどの公園や運動場はとても広大で芝生だということです。サッカー好きの自分にとっては最高地です。今度オーストラリアに遊びに行く時は、サッカー目当てで行こうと思います。

この語学研修で驚いたことは、トイレで流すとき、トイレットペーパーは流してはいけなかったことです。どうするかというと、ゴミ箱に捨てます。これが全然慣れず、何度も流してしまいました。

この語学研修での一番の宝物は、ホームステイ先の他国の子と仲良くなれたことです。最初、他国の子と話すのが嫌でした。ですが、サッカーを通じて友達になることができました。日本に帰るとき、サッカーで仲良くなれた友達と別れるのはとてもつらかったです。

最後に、このような素敵な体験・経験をさせてくれた両親に感謝しようと思います。

私は2週間の海外研修でたくさんの初めてと、たくさんの発見をしました。まず私は海外に行くということが今回が初めてで、すぐ行く前は緊張と期待でいっぱいでした。英語も全く話せないし、2週間も家を離れるのは初めてで、親もとても心配していました。しかし、私は海外に行くことにすごく憧れていました。高校に入る前から行く決めていました。そのため、部活や自分の英語力など不安はたくさんありましたが、しっかり学んで、得るものをたくさん持って帰ろうと思って海外研修に臨みました。

わたしが1番この研修で感じたことは、日本にはないオーストラリアの常識に優しさを感じたことです。まずバスに乗るときは必ず「Good morning!」や「Hello!」など挨拶をします。そして降りるときは前からでも後ろからでも必ず大きな声で「Thank you!」とお礼を言います。もし、日本のバスが後ろからでも降りられるとしたら、きっと大きな声を出すのが恥ずかしいとお礼を言わないで降りる人が多いと思います。私も初めは大きな声を出して言うのはすごく恥ずかしかったです。でも、この恥ずかしいという感情はいらない感情だなと気づきました。また、学校で発表するときもすごくみんな意欲的で恥ずかしいという感情はなくて、授業もそれぞれが意見を出して、たんと進むのではなく全員の声で溢れていてすごく楽しい授業でした。そのため、私たちの授業を教えてくださいました先生に驚かれました。このように日本人が真似をするべき良い常識がたくさんあって、自分ももっと意見が言えるようになりたいと思いました。

もう1つ感じたことは、もっともっと英語の力をつけようと思ったことです。私は、この2週間でたくさん迷ってしまい、たくさんの方に助けられました。まず、初めて自分たちだけで学校へ行き、帰りをした日に迷ってしまいました。帰り、バスに2回乗り換えちゃんとバス停まで着きました。しかし、そこからどこを曲がればいいのか分からなくて、いろいろな道を行ったり、きたりしていました。その日は雨で服も髪もビショビショでした。ペアの子と誰かに聞こうと話し、ちょうど今車で帰ってきたお母さんくらいの女性に場所を尋ねると、家まで送ってくれました。聞くときはすごく緊張したのですがその女性はすごく優しく、気が楽になりました。それから、もっともっと緊張せず、恥ずかしがらずにいろいろな人に分からないことは尋ねてコミュニケーションを取ろうと思いました。それからいろいろな人に尋ねたり、話しをしたりする中で、どう伝えたら・どう表現したら伝わるのかが分からず、伝えたいことの半分も伝えられないということがよくありました。いざ普段の会話を英語で考えると全然単語が分からなかったり、文法や発音などが間違っていたりしました。驚いたのは発音が少し違うだけで単語や音はあっても伝わらなかったことです。ホストマザーと何度も発音練習をして1単語1単語全く私が今まで発音していた音と違っていました。私はもっともっと発音記号を見て練習しようと思いました。せっかく自分がスペルや意味が分かっているも少しの発音の違いで伝わらないのはとてももったいないです。もっと伝える・伝えられる英語を勉強しようと思いました。

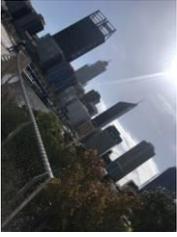
私はこの2週間、すごく充実していて、帰りたくなるくらい恵まれた環境でした。最後のお別れのとき、私は泣いてしまいました。私たちにとっても母的存在でした。私はこの経験をきっかけにもっと将来の選択肢を増えるように今すべきことをしっかりしようと思いました。

私が海外研修に行って一番変わったのは、一人でも公共交通機関で遠いところまで行けるようになったことです。今までは一駅乗るだけでも、緊張していたし、周りにたくさん確認をとらないと自信を持って乗れませんでした。しかし、オーストラリアではじめていく場所で、自分の降りるべきバス停が次かどうかわからない環境で、質問できるのは英語しかない状況でも毎日大学へ通え、パースシティにも自分たちだけで行けたということが、とても自信につながりました。「日本語が使えるんだから、どこにだっていけるわー。」という気持ちでいられるようになりました。これから大学受験のときや友達と遊びに行くときにも、一人で電車に乗れる力は必要だと思うので、今回の海外研修で身につけられて本当によかったです。

私のホームステイ先には、私たちとほぼ同い年の四兄弟がいました。家に帰ると常に誰かがいてくれたので、私たちの話し相手になってくれました。ブロックスというボードゲームや犬のディーザーと四匹の猫とチキンと一緒に遊んだりと本当の兄弟のように慕ってくれました。次女は私たちと同級生で、とてもダンスの上手な女の子でした。その子が通っているダンススクールと一緒に行って、見学もさせてもらいました。そのスクールに通うほかの子達も快く私たちを迎えてくれました。とてもうれしかったです。ホストマザーが現役のCAだったので、いろいろな話を聞きました。「CAとして働きながら、どうやって四人の子供を育てているの?」「大変だと思うことはない?」「今までに大きなハプニングに遭ったことはある?」などと気になることをたくさん質問しました。ホストファミリーや子供たちの協力を得て自分は働いている、と満面の笑みで話してくれたホストマザーの顔は幸せでいっぱいでした。こんな素敵なファミリーの一員になれて本当によかったです。

週末はなるべくホストファミリーの予定にあわせていました。一週目の日曜日には、友達のホストファミリーの家に行ってバーベキューをさせてもらい、二週目の土曜日には自分たちだけでパースシティに行って買い物を楽しみました。そのほかは、ホストファミリーと一緒にすごして、海に行ったり、ウォータータウンで買い物をしたりしました。私たちのホームステイ先はフリーマントルにあって、そこにはたくさんのお店があったので放課後はよくそこで買い物をしました。週に二回だけ開くフリーマントルマーケットへも行きました。店員さんが優しくったのがとても印象的です。

これからこの海外研修に参加する人に伝えたいことは、バスに乗ったときにほかの乗客に話しかけるべきだということです。私たちは毎日乗客に話しかけていました。すると思っている以上に、日本に行ったことがある人や、日本人のホームステイを受け入れたことがある人や、日本語の外ウーを入れている人など日本と関わりがある人に出会えるはずで、オーストラリアの人が日本のことをどんな風に見ているのかを知ったり、速い英語にも対応できるリスニング力をつけるチャンスです。積極的に話しかけて、いっぱい英語を使うように意識してすごしてほしいです。



## 私の異文化体験

2年次 女子生徒

今回、オーストラリア語学研修のプログラムに参加してたくさんの貴重な体験が出来たと思います。私がこの海外研修に参加しようと思ったきっかけはもともと私が海外に興味があったことと、なりたい職業に関係しているからです。でも、私は英語が得意ではなく一年生の時に諦めてしまいとても後悔していたので今年行くことに決めました。行く前は、楽しみという気持ちもありましたがどちらかというと不安の方が大きく、私の英語力で約二週間というながい時間をやっていけるのか、私の発音で伝わるのか、現地の人が話していることを聞きとることができるのかなどとても不安で緊張していました。でも、いざ行ってみると私に理解が出来るようにゆっくり話してくれたり何回も説明したりしてくれる人がたくさんいました。一回、メインキャンパスからホストファミリーの家に帰るときに道に迷ってしまい、インターネットもつながらず困っているときには声をかけてきてくれて道案内まで一緒に来てしてくれる人もいてオーストラリアの人は本当に優しいなと思いました。

なかでも、私のホストファミリーの人たちはとても優しく私がどう説明していいかわからなくて困っているときに急かさず待ってくれたり、分かりやすく言い換えてくれたりしました。

そしてホストファミリーとしたRummikubというオーストラリアの古いボードゲームを一緒にしたことはいいい思い出です。私はそのゲームにはまりすぎて日本からインターネットで買ってしまいました。また、ホストマザーと話した日本とオーストラリアの家族内でのルールの話や学校生活の違い、一緒に見た料理番組もとても面白くていい思い出になったと思います。



私が一番楽しかったのはホストファミリーの三歳と一歳の子と遊んだことで、ちっちゃい子と遊ぶことはとても疲れるけれどもそれ以上にたくさん喋りかけてくれたことや名前を呼んでとてもなついてくれたことがとても嬉しかったです。日本に帰るためホストファミリーと離れることは悲しかったけれどもとてもいい経験をさせてもらったなと思いました。そして、プログラムの中で交流した現地の高校生と交流した時にたくさん話しかけてもらい友達になれたし、日本にはない学校生活のルールなども会話の中で知ることが出来ました。翻訳機を使って日本語で話しかけてくれる子もいたりして、とてもフレンドリーで話しやすかったし、今でもSNSなどでチャットをしており日本に帰ってからも現地の学生さんと文化を交流することができ、とてもいい体験をさせてもらったなと思いました。

私はこの語学研修に参加してたくさんの事を学ぶことが出来ました。英語力が見違えるほど伸びたとは思いませんが、日に日に聞き取ることが出来ることが多くなり、会話の中の返事もyesとかnoとかだけで返事をするのではなくきちんと文を考えて会話もだんだん続くようになっていき、とてもうれしかったです。他にも、当たり前なことだけれど自分で自分の事をきちんとすることや、積極的に自分から行動する力などがついたと思います。このオーストラリアで学んだことをこれからの生活、そして将来に繋げていければと思います。

私は、今まで海外に行ったことがなく、今回のオーストラリア海外研修が初めての海外でした。行く前は楽しみな気持ちもありましたが、それよりも親に頼らずに海外で生活することや、ホストファミリーや大学の先生など祥雲館から来ている人以外の人とはすべて英語で話さなければいけないという不安のほうが大きかったです。しかし、2週間オーストラリアで過ごして、その不安は達成感や自信にかわりました。この海外研修での経験は私の中で素晴らしく大きなものとなり、英語を話すことに対して苦手意識が少し無くなりました。

#### <西オーストラリアの魅力>

西オーストラリアで休日や学校で経験したことがたくさんありました。特に買い物を楽しかったです。

##### ～Fremantle～

Fremantle は映画のよう綺麗な建物が多く、お土産屋さんや食べ物屋さんなどたくさんのお店があります。その中でも Fremantle Market は1つの建物の中にたくさんの種類のお店があり、ドリームキャッチャー、入浴剤、ジャーキーやハンバーガーなど、ここで何でも揃いそうなほどでした。しかし、金曜日、土曜日、日曜日しか開いてないので、行った時はいつもとても混んでいたため、友達とはぐれた事もありました。

##### ～Perth city～

Perth city は一言でいうと都会でした。大きなビルがたくさん並んでおり、H&M やユニクロなど日本にもあるお店もありました。私は友達に教えてもらったおいしいジュース屋さんに行きました。カップが思っているよりも大きくて飲むのが大変でしたが、とてもおいしかったです。



↑ Fremantle



↑ Perth city

#### <ホームステイについて>

私のホームステイはホームステイ先が変わってしまうということから始まりました。ホストファミリーは元々行く予定の無かった私と私のペアが行きましたがとても優しく、温かい家族でした。しかし、小さい子が2人もおり朝食と昼食を自分たちで作らなければいけなかったため、毎日6時、登校時間が早い日は5時半でした。私は早起きがあまり得意では無いので毎日早起きをしているペアの子に起こしてもらっていました。ホストファミリーも私たちが朝食を作り始める時間に起きていたので、朝、ちゃんと挨拶をして、飼っていた犬とたわむれてから学校に行っていました。私たちは一人ずつの部屋が用意されていて、とても過ごしやすかったのですが、4歳のホストファミリーに自分で買ったお菓子をこっそり食べられていたという事件が発生しました。次は気を付けようと思います。

私がこの海外研修に参加しようと思ったきっかけは、将来英語を使って働くために、一度海外を自分の身で体感したいと思ったからでした。英会話力とリスニング力の上達を目的としていましたが、実際に参加してみて得られたものは他にもたくさんありました。

私は研修前、ホストファミリーや現地の人たちと意思の疎通ができるのかとても不安でした。しかし、事前研修でプレゼンの準備を進めたり話を聞いていくうちに、不安よりも楽しみのほうが大きくなりました。せっかく海外に英語を学びに行っているのに、黙り込んでしまっただけではもったいないと思うようになりました。CELT の入学式から卒業式まで、私は二年生の友達とできるだけ前に座って話を聞こうと決めました。CELT 内での授業は、いただいた資料を読み取ったり自分でインターネットや辞書を使える環境にあったので、比較的困りませんでした。しかしホストファミリーとの会話や現地校交流、UWA のインタビューでは、すべて自分の耳で聞きとってそれを返さなければいけないので、思うように話せず相手を困らせてしまうことがしばしばありました。何日か研修が終わって、英会話力の上達には積極的な会話が必要不可欠だと感じました。

もうひとつ気づいたことは、会話の中でのリアクションの重要性です。オーストラリアでは、人の話を聞くときに常に目を見て聞くことが相手への礼儀とされています。でも実際に会話してみると、それだけではないことに気が付きました。日本語で言う「うん」「なるほど」「さすがですね」など、ちゃんとしたあいづちの言葉を使わないと自分が話をしっかり聞いていないのではないかという風にとられてしまう気がしました。それから私は常に相槌のレパトリーを増やして、率直なリアクションを大げさに出すことを心がけました。研修の終わりが近づくに連れて、リスニング力だけでなく、実践的な英会話力も少し身につけられたと思います。

大学に入学後も、意欲的に英語の学習をしたり海外留学を検討したいという気持ちが強くなりました。今回の研修はとても有意義なものになったと思います。参加できて本当によかったです。



## オーストラリア海外研修

2年次 男子生徒

### ・CELT 校内授業

主に、インタビューで聞く質問を練ることや、フィールドワーク時にガイドが説明のために用いると予想される専門的な語の予習など、フィールドワークに向けた準備を行った。なかでも、私にとって興味深かったのは、オーストラリアの先住民の伝説に関するものです。それは、日本の神話に通ずる部分もあり、その伝説の教訓は、自分の置かれた立場を自負し正しく行動せよ、というものでした。オーストラリアは、マルチカルチャーであるが、先住民の残した教訓も大切に、その教育もきちんと行っていることに対して感銘を受けました。

### ・フィールドワーク(ワイルドライフパーク)

ここでは、オーストラリアにしか生息しない動物たちと触れ合うことができ、貴重な体験に大変満足しました。特に、先住民の伝説にも出てくる動物を見られたときは、興奮しました。しかし、世界一幸せな動物といわれるクウォッカには会えたものの、なかなか顔を拝ませてもらえず、セルフィーも撮れなかったことは心残りです。動物に関して学んだことの中で驚いたことといえば、コアラに関することです。実は、コアラはもともと東オーストラリアにしか生息しておらず、私たちが滞在していた西オーストラリア・パースには、観光客を喜ばせるためにわざわざユーカリの木と共に運んできていたということです。

### ・インタビュー

私の班は、オーストラリアの文化と日本の文化の違いとして、それぞれの国の「伝統的な祭り」を題材に取り上げ、オーストラリア人またはオーストラリア在住の人と日本人(今研修参加生徒およびその引率者のうち20名程度)にインタビューを行いました。すると、オーストラリアには“naidoc week”という伝統的な祭りがあることが分かり、詳しく尋ねると、とても興味深く感じました。また、彼らの認識の度合いを推測するに、私たちにとっての“祇園祭”に対するそれに近いと感じ、それぞれを相対化するために日本人には“祇園祭”について尋ねることにしました。相対化すると、オーストラリア人と日本人について興味深い傾向が見えてきました。それは、オーストラリア人の場合、その祭りに対して興味のある人は、それについてよく知っているし、そのほとんどが祭りに参加したことがあると答え、興味のない人は、それについてよく知らないうえ参加したことがない、と答えました。一方で、日本人の場合、祭りについて名前を知っていても、参加したり、詳しく知っていたり、興味関心のある人は少なかったです。そのような体験から、それぞれの国の国民性の違いも感じとれました。

### ・ホームステイ

私のホストファミリーは、スリランカ人とイタリア人の老夫婦だったので、オーストラリアの郷土料理は何だろうという私の疑問は解消されないままになってしまったのですが、イタリア料理を十分に楽しみました。そういったところからもオーストラリアがマルチカルチャーな国であることを実感しました。また、週末にはホストマザーに市内ドライブに連れて行ってもらい、豊かな自然を体感し、言葉では表せないような感覚に身を包まれました。

### ・学校交流

現地校で強く感じたことは、オーストラリアの人に日本に興味を持っている人が非常に多いことと、これは国民の特徴であるかもしれませんが、受け入れる心が非常に大きいということです。実際に、日本語をほとんど完璧に話せたり、ひらがなが読めたり、私よりもポケモンについて知っている人たちに会いました。だから、日本の文化がとても高いレベルで教育されていることに驚きました。まさに、もしかすると、彼らのほうが私たち日本人よりも日本文化のすばらしさを知っているのではないかと疑うほどでした。同時に、自分の国の文化で共感できることがこんなにもうれしいことなのか、と思いました。よく考えれば、相手は自国と何千キロと離れ、歴史上かつては刃を交えた国どうしの民です。そう考えると、ことのすばらしさを、よりいっそう尊く感じます。

### ・観光

週末に、一緒に渡航した友達と水族館を含むテーマパークを観光したり、また別日には現地校交流で親くなった人たちと様々な場所を訪れたり、素直に楽しい日々を過ごしました。ここに来たからこそ生まれ、育まれた友情はずっと大切にしていきたいです。また、オーストラリアに、本当に豊かで魅力的な生態系、特有の生物がいまだ多く残存していることに関心し、日本人として学ぶことも多くあると考えました。

### ・まとめ

オーストラリアでまず感じたことは景色が大きいことで、その地で過ごす人々の性格もおおらかで、とても魅力に感じました。過ごした日々が素直に楽しかったですし、学んだこと、経験したことは多く、貴重であることは理解しています。今回の二週間の経験で得られたことが、私が予想している以上の場面で予想もしていないかたちで役立つことに期待し、文化・語学の目的で研修に参加した身として、高いモチベーションを維持したまま文化・語学を学んでいこうと思います。

私は、16日間という短い間でしたがオーストラリア海外研修に参加することができて本当によかったです。私は日本では経験することができないことをオーストラリアでたくさん経験したくさんのことを学びました。

日本語が伝わらない環境で初めてのホームステイはとても緊張しました。最初は緊張してしまって全然話すことができず、聞かれたことに対して「Yes」か「No」で答えてしまうことが多かったのです。しかし、日が経つにつれて聞かれたことに対して「Yes」か「No」だけではなく自分の言葉で自分の意志を伝えることができるようになりました。また、自分からも積極的に話しかけられるようになりました。ホームステイ先では朝食と夕食の用意など日本では親に任せてしてもらっていたことも自分でしないといけなくて普段していなかったのでもとても苦労しました。親のありがたみを感じることができました。私は日本とオーストラリアの生活の違いにたくさん驚かされました。そして、生活の中で私はオーストラリアにしかない良さや日本にしかない良さに気づくことができました。日本にいるときはあたりまえだと思っていたこともオーストラリアではそれは特別なことで、日本以外の世界を知らないとその特別さに気づくことはできませんでした。

私がオーストラリアで特にいいなと思ったことはオーストラリアでは積極的に親切でとてもフレンドリーな人が多いことです。私がパースシティでバス停を探していて場所を尋ねるとバス停まで連れて行ってくれました。また、私たちが大学見学に行ったときいろんな人が「Hello」と声をかけてくれて手を振ってくれました。昼食を食べているとたくさん人が集まってきてくれていっぱい話しかけてくれました。私が話したことに対して理解していなかったり答えるのが遅くても、分かるように言い方を変えてくれたり、スピードを遅くしてもう一度言ってくれたり、私が話せるまで待ってくれて分かってほしいと伝えてくれるのがとても伝わりました。私はそれがとても嬉しかったです。日本の人は初対面の人と話す時恥ずかしがってしまうことが多いけれど、オーストラリアの人は積極的にグイグイ話しかけてくれて親しみやすくすぐに馴染むことができました。

私はこのオーストラリア海外研修を終えて、最初は参加するかどうか悩んでいたけれど本当に参加してよかったと思いました。もし、参加していなかったらきっと後悔していたと思います。英語や文化の違いだけではなく、コミュニケーション力など生きていくうえで大切なことも学ぶことができました。これから自分がどう生きていくべきなのか考え直すきっかけになりました。

私は人にどう思われるかが気になってあまり自分の意見を相手に伝えることができませんでした。オーストラリアの人は自分の意見をしっかりと持ち「Yes」か「No」かはっきり伝えることができます。私はそれがすごいと思います自分もそうなりたいと思いました。オーストラリア海外研修を終えて前より自分の意見を自分から伝えられるようになりました。また、日本以外の世界を知ること何事に対しても1つのことにとらわれずいろんな考えが持てるようになりました。

この海外研修で学んだたくさんをこれから生かしていきます。

## 私の異文化体験

2年次 女子生徒

私が今回の西オーストラリア研修に参加してみて思ったことは、自分の力で何事もしていかなければいけないと思った。なぜそう感じたかという、バスに乗って学校に向かうとき一度行きすぎてしまったことがあり、自分から何も行動をとれず、どんどん学校からはなれていく状況続き、その時に、自分から外国人に話しかけないと解決できなかったからだ。結果15分遅れてしまった。しかし、自分の力でやり遂げたことはいい経験になった。

さらに、私にとって初めての海外が今回のオーストラリアだったのと、ホームステイ先の家族に同じ年の女の子がいたのもあって、オーストラリアの17歳と日本の17歳に大きな違いがあることに驚かされた。オーストラリアでは、16歳で運転免許が取れて、たばこお酒は18歳から許されている。そのためか、オーストラリアの17歳は日本の17歳よりも大人に見えた。さらにホストファミリーのひとりに私と同じでダンスが好きな女の子がいて、その子と一緒にダンススクールに行かせてもらった。その子は私と同じ年齢なのに将来の夢を自分の力できめもうその夢に突き進んでいた。私も自分の力で道を切り開いていかないと、と感じた。

ホームステイ先でわたしは日本語と英語と共通の英語表現をみつけた。その英語表現というのは、「おい」だった。それはホストマザーがホストファミリーを呼んでいるのになかなか気づかなかった時にホストマザーがつかっていた。私はあまりにもびっくりして、日本でも共通している言葉があると伝えると、ホストファミリーは笑っていた。しかしオーストラリアの「おい」は日本と少しいんげんが違っていた。そのことを知ったホストファミリーが必要以上に「おい」を会話使うようになり私は笑いをこらえるのに必死だった。

ホームステイ先の家が川に近くたまにイルカと会えると聞いたので、ホストファミリーと一緒に歩いて川に行った。川はとてもきれいで私のお気に入りの場所でもある。しかし、イルカを見ることはできなかった。そのかわり、ホストファミリーの末っ子のこと一緒にビーチに絵をかいてとても楽しい時間を過ごした。2週間とゆう短い間でたくさんのに触れることができた。自分がもっと大きく成長して、成長した姿を見せたいと思う。



語学研修に行く前と行った後で内面的に一番変わったことは、もっと英語を勉強しようと思ったことです。このことを思った一番の理由は現地です。週末に遊んだ時に「もっと英語を使えたら今以上に話せるようになるんだろうな」と思ったことです。もちろん相手の子も簡単な単語を使ったり僕たちがわかっていないような空気になると言い直してくれたりして会話は成り立ちはしたけど、もっとスラスラと話せるようになりたいと思ったので英語を勉強しようと思いました。



この写真は週末に遊んだ子たちと撮った写真です。

私が見つけた西オーストラリアの魅力はとにかく人が優しいということです。ホストファミリーはもちろんのこと、大学内の売店の人や Butler College にいた人や John Forrest Secondary College の人たちなどオーストラリアで会ったほとんどの人がとても優しく接してくれて知らない土地にいる身としてはとてもありがたいと思いました。オーストラリアはいろんな土地から来た人が暮らしているから僕たちのように外国人の対応にも慣れているのかなと思いました。日本もおもてなしの心や親切だと言われているけどオーストラリアにはまた違った優しさがあるんだなと思いました。

オーストラリアで大変だと思ったことは交通機関です。とくにバスは日本のように次の停車駅をアナウンスしてくれるわけではなく、自分で目印を決めて降りる駅を覚えておかないといけないので大変でした。一度バスに乗ったときに降りるべきところで降りることができなくて運転手さんに「君たちどこに行きたいの？」といわれ目的地をいうとそこまで行ってくれました。とても優しい人で助かりました。

今回、語学研修にいていろいろな考え方が変わったので行って良かったです。

私はこれまで海外の方と話をしたことがほとんど無く、英語で話すのはハードルが高いと思っていました。しかし、実際にオーストラリアに行って話してみると、皆さん親切で、「英語で話をする」ということへの苦手意識が前よりも薄くなったように思います。ホストマザーとは、日本とオーストラリアの文化の違いなど、色々な話をしました。すぐに英語が口から出てこないときも、優しく話を聞いてくれて、とても嬉しかったです。何も喋らないよりも、とにかく言いたいことを伝えてみるという姿勢が大切だな、と思いました。しかし、私の英語力はまだ全然駄目だと改めて感じたので、伝えたい事を 100 パーセント伝えられるように、もっと英語を勉強していきたいと思いません。

### ○西オーストラリアのおすすめスポット

#### 動物園

学校ではワイルドライフパーク、週末にはホストファミリーと一緒にパース動物園に行きました。カンガルー、コアラ、ディンゴなどのオーストラリア特有の動物や、ゾウ、キリン、大きな蛇なども見ることができました。オーストラリアの動物園はとにかくスケールが大きかったです。物凄くたくさんの動物がいたし、人が歩く通路も木や植物があって森のようでした。一周するのが大変なくらい敷地も広く、楽しかったです。パース動物園の敷地内には広い芝生広場もあって、そこでピクニックをしました。

#### スーパーマーケット

滞在中にはスーパーマーケットに何回か行きましたが、色々面白いものが見つかって、行くのがいつも楽しみでした。量り売りの肉やチーズの大きな塊があったり、アイスクリームやマーガリン、ジュースの大きなパックがあったりと、日本では見られないような光景が見られました。また、オーストラリアで売られているお菓子は、甘すぎるように感じました。



### ○ホームステイ

オーストラリアでの暮らしは日本とは異なる所があって、驚くことが多くありました。まず、家が大きかったです。今回私たちはペアの人と二人でステイさせていただきましたが、一人に一つのベッドルームを貸してもらいました。裏庭もとても広くて、ブランコやトランポリンが置いてありました。また、食器の洗い方も少し違うようで、シン

クが二つに分かれていて、洗う場所と流す場所に分かれているようです。どちらにも水を溜めて洗っていました。食器洗い機もあったのですが、日本のものよりかなり大きかったです。

### Butler College との学校交流



Kane 先生による説明



食堂にてインタビューアクティビティ



音楽選択者による歓迎の演奏



日本語授業選択者との交流



祥雲生によるプレゼンテーション



折り紙を使った交流

## John Forrest Secondary School との学校交流



オーストラリアンフットボールの紹介



休み時間の様子



Kahoot を利用したクイズ大会



休憩時間の軽食



祥雲生によるプレゼンテーション



日本語授業選択者との交流

## 校外学習の様子



フリーマントル周辺の散策



カンガルーに餌やり体験



ウォンバットと記念撮影



アボリジニーの方による Kings Park 案内



フリーマントル刑務所（世界遺産）のツアー



フリーマントル刑務所の内部

研修中の様子①



CELT 近くの川辺にて



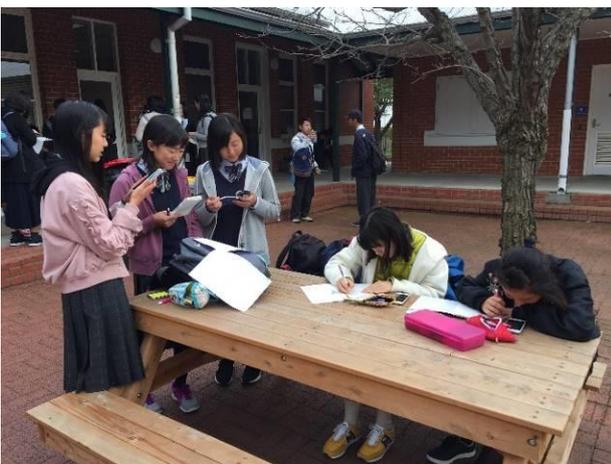
CELT でのサッカー



現地バディとの交流



本キャンパス図書館内



最終日のプレゼン準備



校外学習に向かうバス車内

研修中の様子②



Kings Parkにて記念撮影



Kings Parkにて昼食休憩



最終日のプレゼンを終えての昼食



朝の様子①



朝の様子②



フリーマントルマーケットにて昼食

Perth の懐かしい景色



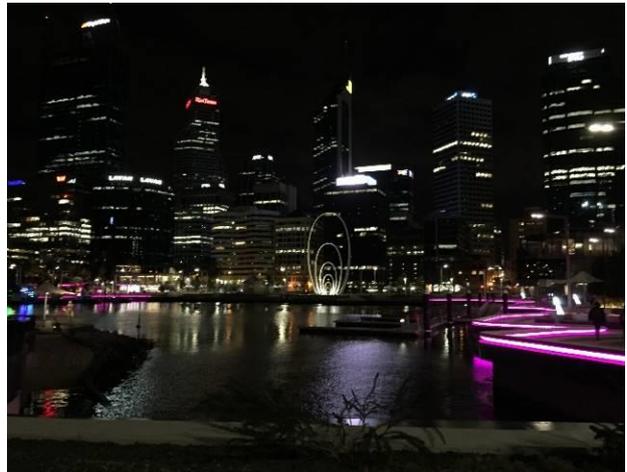
CELT に最寄りのバス停



授業中の CELT のキャンパスの外観



フリーマントルの高台からの眺め  
(黄色のラインは街を使ったアート)



Perth 中心地の夜景



雨上がりの Kings Park



Perth 駅近くの様子

Perthの多国籍料理



オーストラリア料理 (カンガルーステーキ)



オーストラリア料理 (お肉の詰め合わせ)



インド料理 (カレーとナンとラッシー)



トルコ料理 (ケバブ)



サハラ料理 (羊の肉とカレー風味のライス)



ベネズエラ料理 (カチャパ)

集合写真



CELT の正門にて



SSH 科学研修組と Roger 先生



文化・語学研修組と Sarah 先生



文化・語学研修組と Bruce 先生



SSH 科学研修組 (Kings Park にて)



Butler College での集合写真



発行：兵庫県立三田祥雲館高等学校  
国際交流協会

平成30年11月1日



